第１５３回　街なか研究会

路地散歩「市川路地と黒松の街並み散歩」

レポート

202340110　街なか研究会・全国路地のまち連絡協議会

も　く　じ

1.　黒松の市川　街歩きの感想　今井　晴彦　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2.　市川黒松のある街歩き　伊藤　雅彦　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

3.　「クロマツの街いちかわ」街歩きに参加して　北村　良　・・・・・・・・・　3

4.　「文人が多く住んだまち市川市　クロマツの多く残る路地裏を歩く」
感想等　三橋　重昭・・・・　5

5.　木村　晃郁　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

6.　配布資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
当日コースマップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
菅野地区クロマツ　ガイドマップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
八幡地区クロマツ　ガイドマップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
マツ・みち・まち　いちかわ　まち歩き　ガイドマップ　Ⅰ　・・・・・・・・　23
マツ・みち・まち　いちかわ　まち歩き　ガイドマップ　Ⅱ　・・・・・・・・　25
新建ちば掲載高山氏論文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
市川市観光マップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32

7.　追加資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
「文人が多く住んだまち市川市クロマツ多く残る路地裏を歩く」・・・・・・・　33
課題・今後の取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44

黒松の市川　街歩きの感想

2023 年９月　今井　晴彦

市川市にはほとんどいったことが無かったので、どういう所かさっぱりイメージがないまま参加することになった。黒松が確かにあちこちに散在していて、それが街の個性を創っていることが良く分かった。その魅力が文人や金持ちを呼び寄せて、落ち着いた高級感のある住宅地を作り上げてきたということも首肯される。逆にここに黒松がいなかったなら、ただのどこにでもある郊外の市街化した街にしかならなかったであろう。

というわけで、今後ただの郊外市街地になっていくのか、それとも黒松の魅力をさらに拡大させて、個性のある街になるかが課題になる。しかしどうも前者の方向に行きかねないような危うさがあった。まとめてミニ戸建て住宅地に変貌してしまう敷地、黒松などいらない高層住宅などの侵略が始まっていた。どうやって黒松の街を守るかである。なんといっても地元の方々が関心をもたないと始まらない。例えば学校の授業で黒松の話を教えることはしているのだろうか。

景観条例などで景観重要樹木の指定をしているのだろうか、地区計画でもかけて保全するようなことはしているのだろうか。などと色々気になった。とりあえずは、黒松の街をテーマにした写真コンペでも行ってみたらどうでしょうか。できれば黒松の林の中で、酒飲み会でもやってくれたらいいなと思いつつ帰宅しました。

市川黒松のある街歩き

伊藤　雅彦

数年前から「ぜひ歩きましょう」と誘われていた黒松が残された景観のある市川八幡地区を歩く。準備いただいた高山さんありがとうございました。
葛飾八幡宮、八幡の藪知らず、14 号線（千葉街道）そして立て直された市役所等を見ながら約８千歩を歩きました。江戸から続く区割りが残り、豪邸が多くその敷地内外にある黒松はいにしえの風情を思い起こすことができます。しかし現存する黒松はまばらで、高木は切られ景観上計画的な保全がされていないと思いました。良好な住環境保全という点では道路に飛び出した松の根や、逆に私有地から公道に覆いかぶさるような黒松は果たして保全すべきなのか、特徴ある路地を形成していても誰が管理主体であるべきか判然としない中途半端な存在に思いました。

集合場所である菅野駅は外環につながるアンダーパスの上にある新しい駅でしたが実は 1916 の古くからある駅でした。駅前には昔の名残のような商店がいくつかあり、近くには道標も石渡本店（酒の量り売り）もある歴史的な場所でした。駅前の平田緑地には多くの黒松がありますが諏訪神社と個人の土地をあわせ、千葉県として初めて緑地保全地域指定とした貴重な雑木林です。ここには黒松の松ぼっくりが落ちており手を入れていない非常に希少なエリアだと思いました。これらは移設され集約されたものと伺いました。

市川八幡地域は旧来江戸の別荘が多かったと聞きます。従って真間川、新川、小名木川など河川や水路は江戸とつながっていた人流の通路だろうと推察できます。一方、途中にある天領だった市川市行徳地区は江戸初期から塩田で栄え、主として同じ水路を経てもそれは江戸へ塩を運んでいた物流水路で常夜灯などは残っています。その街道沿いは商家が残る程度で、周辺には江戸時代から数多くの神社仏閣あるのに、黒松の痕跡がないのは興味深い。神社を数箇所歩いてみましたがシラカシ、クスノキ、イチョウ、ケヤキだけであり、松はありませんでした。遠くからでもわかる高木となる黒松は道標などと同じく、街道があることを示す都市装置だったのでしょうか。

「クロマツの街いちかわ」街歩きに参加して

2023 年 10 月９日　北村　良

　この度の「クロマツの街いちかわ」街歩きでは大変お世話になり、ありがとうございました。
美しい街並みが、大きく残念な方向に変わっていく、まさにその現場を目の当たりにすることになり、深く考えさせられる体験となりました。
私は、今、電線・電柱を地下に埋めようという NPO に所属し、活動に取り組んでいますが、日本の無電柱化は、なかなか前に進みません。今回のツアーでは、これに似たような残念感を感じた次第です。自分はどう動くのか考えても、有効な手段を見つけることができず、無力感と焦燥感ばかりが募ります。

　美しい古い街並みは社会的な財産であると思います。それだけで直接的な価値があります。しかし、日本の多くの人も、税制も、政治も、それを広く認めていないように思えます（重伝建保存地区などはありますが例外的です）。経済的に豊かになった今も、街並みをフローとしてしかとらえていない。古いものは美醜の判断をされることなく壊され、常に新しいものが建てられ、また、その方が「美しい」とされる。たいがい、ご近所の奥様方あたりから「あら、綺麗になったわね」などと言われておしまいになってしまいます。
　古いものを残すより、壊し、新たに造るほうが、金銭的には大きな金が動きます。お屋敷は小さな家に分割し、一生かかって返済するローンを貸し付ける方が、建設業も、不動産業も、金融業も儲かるわけです。
　そこには、歴史的時間や自然の美しさに対する畏敬の念が、欠落しているように思います。
ヨーロッパの各都市が先の大戦によって壊滅的に破壊されたにもかかわらず、戦争後の復興では、図面、写真はもとより、中世に描かれた絵画まで参考にして、元のとおりに復元したという話を聞いたことがあります。日本では、このような話はついぞ聞かない。この彼我の差は何なのでしょうか？

　黒松が保存樹木として残され、家屋がセットバックすることによって、松が道路に取り残される形になっている現場を見ました。松は適度に車のスピードを抑え、歩行者にとっては快適な空間になっていると思います。ところが事情を知らない運転者からすれば、「なんで道にこんな松が残っているんだ?!」となってしまうでしょう。松で車を傷つけ、舌打ちした運転者もいたと思います。車の通行で傷ついた松の根元を見ながら、そんなことを考えました。

　かつて私は東京の郊外に、チェーンレストランを展開する仕事に従事していました。土地の所有者からは、「店は作っても、欅の木だけは残してくれ」と言われるケースが、少なからずありました。効率を考えれば、店舗を営業するうえで、木は厄介者です。停められる駐車台数は減るし、落ち葉の量は半端ではなく、その掃除には大変な手間が掛かります。それでも私は、駐車場に大木のある店舗の佇まいが好きでした。そんな店舗も、１０年１５年と経過し、先代の賃貸人が亡くなると、２代目は営業を優先して、伐採してしまうことがありました。コストを優先して、３、４mのあたりで真一文字に切られた欅を見るのは、哀れで心が痛みました。
　松は美しい。しかし、松葉は屋根に落ち、雨どいを詰まらせ、家を痛めるとの解説でした。武蔵野の欅と似たような葛藤がここでもあるのだろう、と想像します。だから、切るのか？それでも、残すのか？

私たちは何をしたいのでしょうか。何を畏れるのか、何が大切なのか、改めて問われている気がしました。

「文人が多く住んだまち市川市　クロマツの多く残る路地裏を歩く」

感想等

三橋　重昭

地域の理解

江戸～明治に防風林として植えられたクロマツ、古くはこの地域は砂州でクロマツが自生していた。明治~大正にかけて鉄道が敷設されて別荘を含む住宅地になってもクロマツは大事にされて今日に至る。

（まち歩きコース、距離）

１）　京成菅野駅拠点・・東西　1500m

２）　京成八幡駅拠点・・南北　2700m

私は 1957 年~1963 年の６年間、京成八幡駅徒歩 15 分のところの中学、高校に通学していて、この地域が通学路だった。一部大邸宅があったのは知っていたが、この住宅地を歩いたのは 60 年ぶり。

60 年ぶりの印象

京成菅野駅下を通る東京外環道、京成八幡駅から 15 分も歩くと田んぼが広がっていたがそこは大柏川が拡幅され住宅地に変わった。大柏川下流の今回歩いた真間川周辺の住宅地は変わらない印象。その中にいくつもの大邸宅があって、クロマツとともに良い景観を形成している。歌手岡晴夫邸は 300 坪以上あったと思うが、敷地 20 坪弱の建売住宅になって居た。その近くの 530 坪の大邸宅は売却されたのか、阪急阪神不動産が開発公示していた。

クロマツを大事にする市民や行政の取組みは理解できた。これを風致地区や景観形成地域等の制度でどう守っていくか考えさせられた。

懇親会場の本八幡駅前は既に再開発で数本のタワマン、さらに 2030 年竣工予定で再開発が進行中（44 階、870 戸タワマン等）という。

街中心部とその周辺は、明治以来、桃や梨畑（そのための防風林としてのクロマツ）、高級住宅街、ごちゃごちゃした駅前の再開発と街の様相を変えている。

街並景観プランナー高山登さんガイド

事前に 20 ページの資料、現地でガイドマップⅠ　Ⅱ）（まちづくり家づくりCafé　Ichikawa 発行）、「新建ちば」掲載２論文、いちかわ景観１００選等をいただき、また現地での懇切丁寧な説明で地域形成、クロマツの街いちかわの保存の努力が理解できた。

高山さんに感謝。

（参考写真等）

菅野クロマツ本通り　老舗酒屋前

クロマツの映える住宅路地

懇親会後に行った市川駅駅前公共展望台（手前に江戸川、奥にスカイツリー）

懇親会場の場で進行中の再開発計画（この周辺にもクロマツはあったが）

市川市黒松の路地

木村　晃郁

市川・本八幡の街を歩くのは２度目ではないだろうか。市川は、高校生の時に同級生の女子が“さだまさし”が好きで、さだまさしの家に行くのに付き合えと言われて、男女４人だったかで市川の高級住宅街を歩いた。当時は、「雨やどり」や「関白宣言」など、さだまさし絶頂の頃である。アルバム「帰去来」の写真が、さだまさしの家の前だという情報を元に、市川の高級住宅地を歩き回った。その後、その女子は満足し、青春まっただ中の４人は江戸川土手に行き、土手の草原に座ってギターをかき鳴らした。当時の高校生は、誰しもがフォークやニューミュージックに傾倒し、誰もがギターを弾いていた。かく言う著者も郵便局の配達のなけなしのバイト代を、ギターにつぎ込んで挑戦してみたものの、悲しいかな音痴でリズム感がなく、加えて指先の器用さもないという絶望的な状況に、当時の自分としては大枚を無駄にして、ギターはあえなく押し入れの奥に仕舞われたのであった。いわゆる、ほろ苦い青春の思い出である。

帰去来レコードカバー

本八幡にも一度来て、八幡宮の前を通り過ぎた記憶があるのではあるが、果たして何をしに来たのか、今となっては全く記憶がない。という状況なので、まあ初めての市川のまち歩きである。

１．菅野地区

今回の案内人は、大学建築学科の先輩の高山登氏である。氏は、市川在住で電線類の地中化や市川の黒松の保存など、景観に関する活動をしている。

京成本線菅野駅に集合して、まずは菅野地区の黒松の路地を歩く。駅南口の平田緑地で高山氏の解説を聞く。駅前には外環道がアンダーパスで整備されている。氏の解説によると、外環道の整備でかなりの黒松が切られたとのこと。駅前の外環道アンダーパス上の植栽には気持ちばかりの黒松が残されている。

外環道アンダーパス上の植栽の黒松

平田緑地から新田に抜ける通路

平田緑地を出て駅南西部新田に向かうが、その緑地のアプローチが既に路地である。また、さすが黒松のまち市川！マンホールも黒松がデザインされている。

黒松がデザインされたマンホール

線路沿いを西に歩いて最初の踏切を右に見て南に折れる。この踏切、様々な工作物が設置され、なんとも賑やかな踏切である。車止めがあり人と自転車・バイクのみ通過可能のようだ。

色々賑やかな踏切

南に折れたところで驚いた。黒松が幅員 5mほどの道路に屹立している。当然、歩道もなく、ツリーサークルもない。まち歩きするに当たっての前知識として、こうした状況があることは知っていたが、この黒松の唐突感は予想外であった。さらに進んでいくと、状況はその様相をより濃くしていく。黒松の巨木が民地からも、路上からもにょきにょきと空に伸びている。道の両側から路上を覆っているところもあり、閑静な住宅地というイメージを超えて荘重ささえ感じる。素晴らしい風情である。

路地の上空を覆う黒松、その間を抜ける電線

このまちは、無電柱化がされておらず、電線も道路上空を通っており、どのように両者が折り合いをつけているのかわからないが、電線が松の間を抜けている。このような状況では、高山氏の進める無電柱化もあまり効果がないのではないか。上空は電線より黒松が目立ち、路上は電柱より黒松の方が自由に占拠している。

また、このまちの路地は、カーブしているのが良い。ほとんど、まっすぐの道が見当たらない。元々のあぜ道の名残なのか、それとも水路の名残なのか。おかげで、まちの表情がよくうかがえ、黒松も折り重なって見え、重層感が出てくれる。

300mほど言ったところで高山氏は折り返し、元来た道を通り再び駅前を通過した。普通まち歩きツアーは、一筆書きでまわるものであるが、今回は二つの駅の周りを歩く都合上このようになったのであろう。

右に左にうねる路地

駅前を通過した駅の東側には、道のカーブに沿って昭和レトロな建物が 4〜5 棟建っており、独特な景観を見せている。いずれも空き店舗のようだ。「もったいないなあ、リノベーションすれば面白いのにな」と思いつつ、ツアーを追う。

駅前の昭和レトロな建物群

駅東側の踏切を渡った。そこには古色蒼然とした木造建物の酒屋さん「石渡商店」があった。高山氏が店の前で解説していたら店の主人が中を見せてくれるという。建築・都市計画系の仕事をしていたメンバーが多いこのツアー、先を急ぐ高山氏を尻目に続々中に入っていく。

困ったなあと言う顔をしている高山氏に「高山さん、ここは諦めて、小休止ですね」と肩をたたいて私も中へ。中では、気分を良くした店主が、今日は樽酒があると希望者に試飲させている。このメンバー建築も好きであるが、酒はもっと好きである。皆喜んで試飲させていただいた。

冷蔵ケースに鎮座する
樽酒

当然私もである。冷蔵ケースの中に二つの樽が鎮座している「高清水」と「奥の松」、後者を試飲させていただく。日本酒に樽の香りが移り、暑い中歩いてきたことも加えて、冷たい酒がのどごし良く、身体に染み入ってくる。試飲しただけでは申し訳ないので、これからまだ歩かなければならないが、奥の松四合瓶を購入する。まち歩きの後の懇親会で皆さんと呑もう。

古色蒼然とした木造の酒屋

試飲に群がる参加者と店の主人（中央奥）

さらに東に向かっていく。こちらの黒松は少し密度が低いようである。それでも、沿道の建物が平屋や二階建ての住宅が多く、道路に面して庭持っているものも多いことから、天に伸びた松は道路からの視野にその威容を誇っている。

酒屋から 100m強歩いたところで南に折れて、50mばかり進むと右側に立派な築地塀のお屋敷が見えてくる。その築地塀の前の道路に 3 本の松が並んで立っている。いずれも、申し合わせたようにおや鴨川に傾いている。菅野地区の黒松景観の一つのクライマックスであろう。

低層住宅地の空に黒松の巨木が威容を誇る

参加者からも、お～と小さな歓声が上がった。

しかし、この松はなぜ傾いて立っているのか謎である。防風林や高山の松は風下に向かって傾いて立っているが、この３本の松の北側の松は反対側に傾いている。もちろん、まっすぐ立っているものもある。

そういえば、築地塀の反対側の土地はセットバックしていたが、築地塀の家も建て替えるときはセットバックするのだろうか。そのとき、３本の松はどうするのだろう。他の路地でも２項道路交代は必要である。と、すると、この黒松は消えていく運命なのか。様々な謎が浮いてくるが、そうした謎を残しつつ、ツアーは本八幡地区に移る。

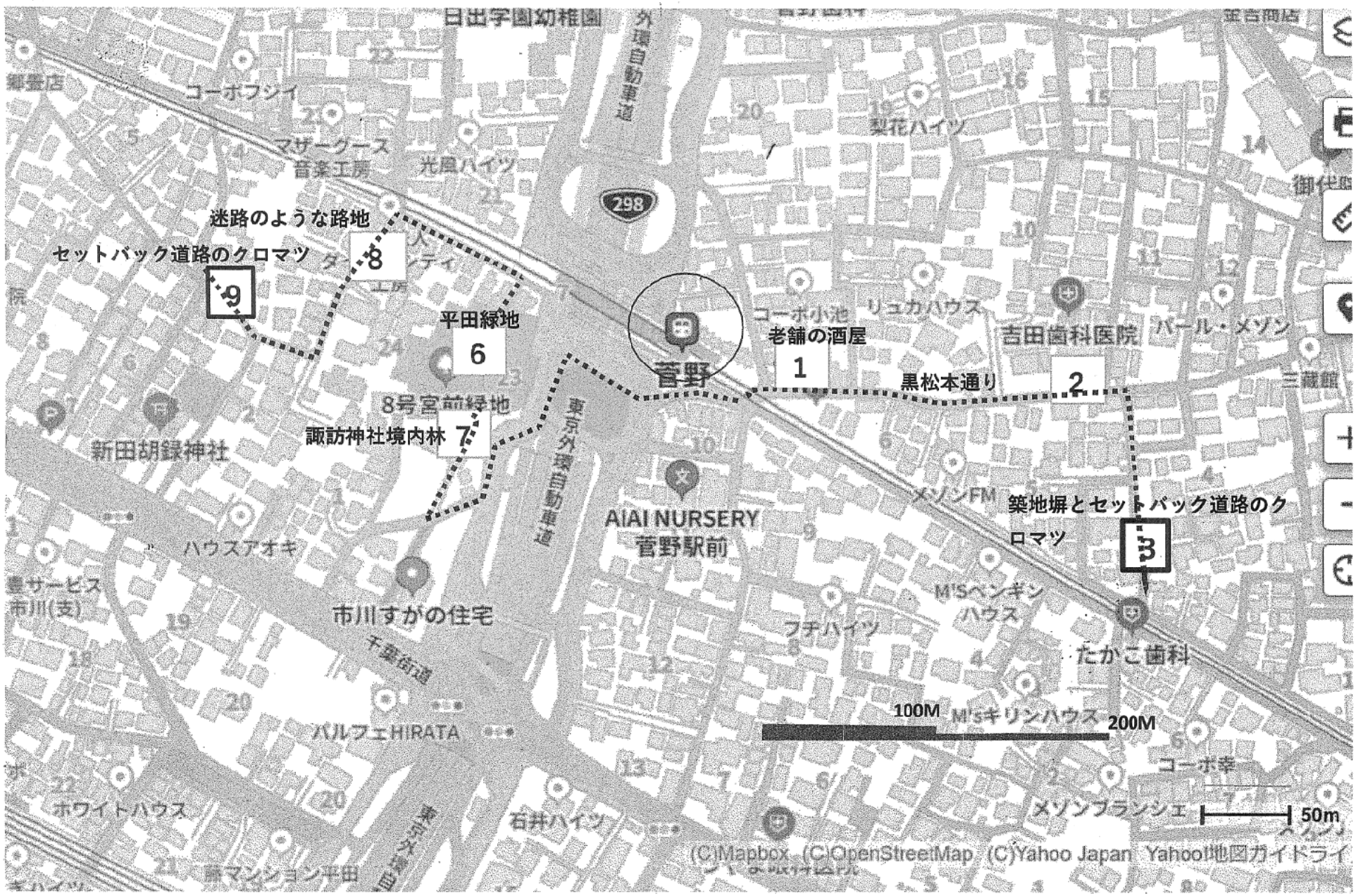
築地塀と黒松。道路の反対側は２項後退

追伸、路地歩きのツアーであることを忘れていた。この築地塀三本松をさらに南下すると、ジグザグにカーブを描く路地がある。この線形も不思議であるが、最も狭いところは２ｍ程度しかなく、しかも民地のたたき部分が段差を持って張り出している。面白いなと写真をとっていたら、宅配業者の軽トラがこの段差を乗り越えて通過していった。

ジグザグ路地

ジグザグ路地の最も狭い部分

1．菅野地区クロマツ　ガイド　　別紙資料参照「いちかわ　まち歩き　ガイドマップⅠ」



２．八幡地区

続いて、八幡地区である。京成線を一駅乗って京成八幡駅で下車、まち歩きツアーで電車で移動はなかなかなパターンである。ぶらり途中下車の旅という番組を思い起こす。さて、京成線は「京成八幡駅」であるが、直線で約 300m離れた位置にあるＪＲは「本八幡駅」となる。周辺の地名は「八幡」である。「本」はどこから来たのか。ググってみると、葛飾八幡宮の門前に京成線の「八幡駅」があったらしい。これと区別するために、国鉄（鉄道省？）が「本八幡駅」としたらしい。なお、現「京成八幡駅」はもともと「新八幡駅」として開業し、「八幡駅」の廃止「新八幡駅」への統合により「京成八幡駅」と改称して現在に至るとのこと。（ウィキペディア）

また、市川市の市役所は八幡にある。昭和９年に市川町、八幡町、中山町、国分村の４町村が合併して市川市が誕生したが、その時のお決まりのすったもんだにより、市の中央に市役所を整備して、名称は当時最も知られていた「市川」を採用したようである。ＪＲ本八幡駅周辺に加えて京成八幡駅南口の再開発も行われ、京成本社が押上から引っ越してきて、かなりにぎわいを呈してきている界隈である。

話が最初から脱線して恐縮である。路地歩きに戻ろう。駅を降りて南口を出て東に進むと、右側に本棚を道路に向けて設置している書店に驚かされる。書店の壁が本棚になっているのである。これも日本だなと思う風景ではないか。他の国では、持って行っていいですよと言う状況である。

さらに京成線沿いを東進し葛飾八幡宮の参道に至る。幟が立っており、ご縁日のようである。（正確には翌日が「八幡祭」当日）参道を進んでいくと、露店がちらほら出ている。本殿にお参りして奥に進んでいくと、神輿蔵が開かれて御神輿を拝見することができた。

壁が本棚となっている書店

葛飾八幡宮鳥居と幟

葛飾八幡宮本殿

宮神輿

ところで、葛飾といえば寅さんの口上「私、生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い…」にあるように、東京の葛飾区を誰しもが思い浮かべるが、古くは下総国（千葉県北西部）の郡名であった。かなり広い範囲をさし、西は隅田川から東は船橋あたり、北は茨城の古河市の一部や五井蒲池付近と、埼玉県の幸手・春日部・杉戸あたりに及んでいた。ちなみに江戸川以西は、江戸時代に下総から武蔵に編入された。両国橋は、下総と武蔵の二つの国を結ぶ橋という意味である。

葛飾八幡宮随神門前の道

さて、路地歩きであるので八幡宮を辞して随神門前の道を東に向かう。さらに、住宅街を進むと大谷石の塀の一部がかけている塀に出会う。多分、この街であるから前は黒松などがそこから伸びていたのではないかと、同行者と話す。いわゆるトマソン物件である。

一部に切り欠きのある大谷石の塀

住宅地の路地を北上していくと、竹垣のある邸宅に出る。庭の緑も濃い。その正門に、黒松の巨木が屹立している。車の出入り口であろうシャッターが残念である。その向かい側も豪邸であり、薬医門と大谷石の塀に囲まれた庭には多くの黒松が植えられている。この二つの豪邸で構成される景観は、市川市が誇るべき景観ではないだろうか。こうした豪邸の維持には様々な障害があると思うが、是非残していってほしい。

←↓竹垣の豪邸

薬医門

左に竹垣の豪邸、
右に大谷石の豪邸

さらに住宅街の路地を進む。道路上空に張り出している黒松。大谷石と生け垣の邸宅。小さいながらも木造の門を設える邸宅。などなど、様々な表情を見せてくれる。また、水木洋子邸の前の道は、元水路なのか、右に左にうねりながら道の行く先を見え隠れさせて、散策する者にこの先はどうなっているのかと、期待を湧かせて誘ってくれる。いい道である。

大谷石と生け垣の邸宅

↑↓道路が右に左にうねり、先の景観が見え隠れして、歩いていて楽しい道である。

道路に覆い被さる黒松

木造の門が設えられた邸宅

水木洋子邸

※水木洋子
戦後、日本映画界の脚本家としての草分け的存在。その居宅がギャラリーとして残されている。

水木洋子邸の浦側を北上する。遠くに黒松の緑が見え隠れして視界に入ってくる。コンクリート打ちっぱなしの塀と大きな門が黒松群を背景に背負っている。水平線を強調した RC の門と黒松が調和している。やはり景観は、材質の問題ではなく、デザイン力の問題だと思う。黒松群は背後にある「八幡東公園」のものである。

遠くに黒松が見えてくる

RC 造の門と黒松群

RC 造の門を折り返して南下する。竹垣と生け垣を組み合わせた塀や大谷石とフェンスなど大きな庭を抱えた住宅が現れる。いずれも、良い景観を呈している。大谷石の石蔵もいい味を出しいている。黒松は相変わらず自由で、敷地内や道路問わず生えており、しかも斜めに延びて道路と敷地をまたいでいる。しかし、何度も言って恐縮であるが、黒松はなぜこんなに傾いて伸びているのだろうと思う。

←竹垣と生け垣の組み合わせが素晴らしい。庭の松も素晴らしい。

←→庭の松と道路上の松。道路上の松は斜めに延びたり根元だけを道路上に見せたり自由である。

さらに南下すると「八幡五丁目クロマツ公園」に出る。都市計画道路３・４・１８号線（ニッケコルトンプラザ通り）の整備に伴ってできた公園と考えられる。この都市計画道路、周辺の住宅地から大きな反対を受けたようで、多分防音壁として高さ３ｍ程度の透明クリル板の塀が道路沿いに立てられている。「広報いちかわ　2016 年（平成 28 年）11 月 5 日　No.1555 特集 1」には、「市川の新しい流れをつくる都市計画道路 3・4・18 号浦安鎌ケ谷線ってこんな道」と題してこの道路の整備方針について解説されていて、「視界を遮らない遮音壁　車道と歩道の間に透光性遮音壁を設置し、景観にも配慮した騒音対策を行っています。」と書かれている。本当に景観に配慮したと言えるのだろうか。

八幡五丁目クロマツ公園

都市計画道路３・４・１８

さて、黒松ツアーはクライマックスを迎えつつある。八幡地区を歩いていてなんとなく豪邸巡りをしていることに気がつく。まあ、黒松がよく保全されているのは大きな敷地で大きな庭がある邸宅になるのは必然と言える。その最たるものの前にやってきた。案内役の高山氏は同だと言わんばかりの顔をしている。参加者もお～っと小さな歓声を上げた。長大な瓦を乗せた漆喰塀（築地塀？）と敷地内多くの松が周辺を圧倒している。赤い木柵の内側には立派な門が設えられている。大豪邸か企業のゲストハウス・保養所だろうか。門などに何も記載されていない。もちろん、高山氏作成のルート図にも記載されていない。

宅地開発事業計画事前掲示板

しばらくみていると、赤い木柵の小さな掲示物が目に入ってきた。「宅地開発事業計画事前掲示板」！なんと、宅地分譲されてしまうようである。先ほど、どうだまいったかという顔をしていた高山氏の目が点になっている。彼の黒松案内ルートのクライマックススが風前の灯火である。しかし、これだけいいものを市川市は保全できなかったのだろうか。実にもったいない。

黒松ツアーのクライマックスの超豪邸

黒松ツアーを終え、本八幡駅前の懇親会場に向かう道すがら、京成線沿いを歩き市川市役所に出る。２０２０年７月に竣工した新潮社である。北側は日影規制等に配慮して上層階がセットバックしていく傾斜屋根となっており、壁面緑化？屋上緑化？がされている。基本設計図書には、「北側の風致地区に配慮し、奥行きの深い平面が上層へ向かって後退する「ひな壇型庁舎」として、北側ファサードを斜面林のような緑にすることで、景観的、環境的にクロマツ市街地（風致地区）と連続する庁舎づくり」と書いてある。南側は、日照による空調負荷を減らすために南側全面に設置したPCaの水平ルーバーとなっている。南北両面が違う機能でるが、同じ水平方向を強調したデザインで統一され、印象的な建物となっている。

しかし、竣工約１年後にこのルーバーに亀裂が入っていることがわかり、温度変化による伸縮や乾燥収縮でルーバーが変形し、モルタルとの継ぎ目付近に損傷が発生した可能性があるそうだ。

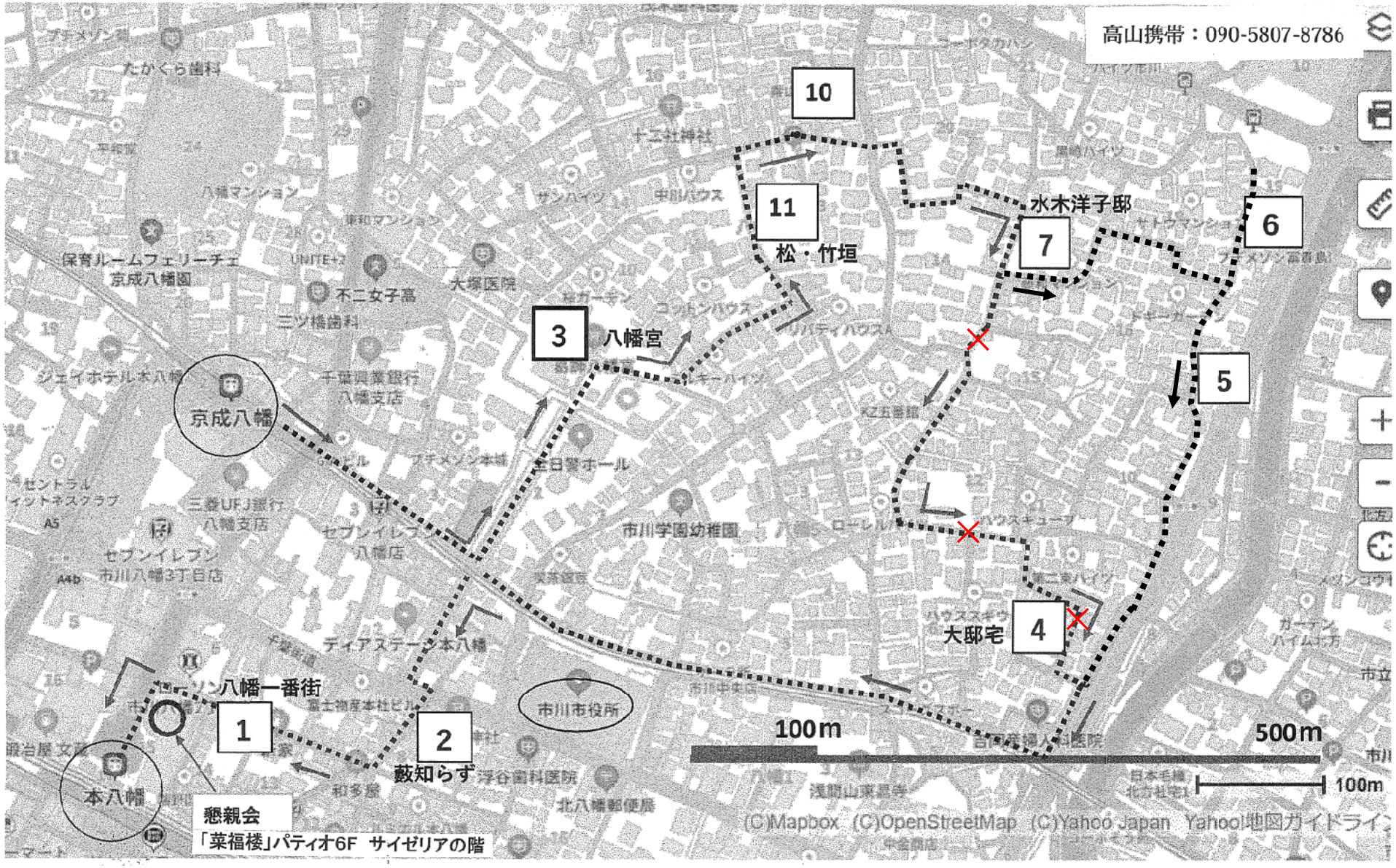
市川市新庁舎北面

市川市新庁舎南面

市川市役所の千葉街道の向かい側に、鳥居が配された竹藪が忽然とある。「八幡不知森（やわたしらずのもり）」で、広辞苑にも「八幡の藪知らず」の項目があり、「ここに入れば再び出ることができないとか、祟りがあるといわれる。転じて、出口のわからないこと、迷うことなどにたとえる」とあり、江戸川乱歩の「孤島の鬼」や夏目漱石の「行人」等、さまざまな小説にも、迷い込んで出られなくなることの喩えとして使われている。（市川考古博物館・市川歴史博物館ホームページ）

さて今宵も、本八幡の中華料理店で、反省会という名の飲み会に、反省する気もさらさらない面々の夜は更けていく。と思ったが、最後にオプションがあり、前職の砥石計画同人がコーディネートを担当した、市川駅南口の再開発ビルアイ・リンク・タウンの展望台に上り夜景を楽しんで帰った。

2．八幡地区　クロマツ・ガイド地図　別紙資料参照「いちかわ　まち歩き　ガイドマップⅡ」



市川の新しい流れをつくる 都市計画道路 3・4・18号 浦安鎌ケ谷線ってこんな道

11月10日(木) 午後2時30分 全線開通

市川市は、東西延長約8キロメートルに対し南北延長が約13キロメートルと、南北に長い地形です。しかし、これまで南北を縦断する幹線道路がなく、市内の交通渋滞の大きな要因となっていました。このたび、都市計画道路3・4・18号の未整備区間、市川インター入口交差点から本北方橋までの約1.6キロメートルが完成します。この道路は、国道14号と交差して南北を直線でつなぐ重要な機能を果たすものとして、周辺環境に対しさまざまな配慮をして整備されました。今号では、この道路の特長や開通による効果についてお知らせします。

問☎712-6349都市計画道路課

市川市の都市計画道路網

新しい道を開く 今回の整備箇所

踏切での事故や渋滞を防ぐ 京成本線との立体交差(アンダーパス)

鉄道踏切は交通を遮断し慢性的な渋滞の原因となりますが、この道路は京成本線の地下を通ることで円滑な交通を実現します。なお、アンダーパス部分には時間雨量70ミリメートルまで対応できるポンプや電光掲示板を設置し、大雨に備えています。

走行レーンが変わります

国道14号と交わる市川インター入口交差点は走行レーンが変わります。都市計画道路3・4・18号の浦安方向に向かう車線は右折・直進・直進左折、鎌ケ谷方向に向かう車線は右折・直進・左折の、3つのレーンを設けます。また、国道14号には新たに右折レーンを設け、信号待ちによる渋滞の発生の緩和を図ります。

安全で快適な広幅員の自転車歩行者道

自転車と歩行者の通行箇所を青い線で分けています。自転車は歩行者に注意して、自転車マークのある車道側を走行するようお願いします。

この道路の整備効果

渋滞緩和・交通安全

京成本線との立体交差および国道14号との十字交差により、主要地方道市川柏線(八幡中央通り)や鬼越北方・税務署通りなど周辺道路の渋滞が緩和します。また、住宅街の生活道路に入り込む自動車が減少するため、生活道路の安全性が向上します。

防災・救急に役立つ道

災害時の避難通路や迅速な救急活動のための道路として機能します。

公共下水道整備

この道路の整備に合わせて、道路下に流域下水道市川幹線が埋設されました。これにより市北東部の公共下水道の整備が進み、大柏川や真間川などの水質が改善されます。

開通を記念し、開通式を開催します

日11月10日(木)午前10時
場国道14号市川インター入口交差点付近

地元小学校吹奏楽部による楽器演奏や通り初めなどのイベントを企画しています。なお、天候などにより場所や内容を変更する場合があります。

クロマツを保存した道

移植や道路線形の工夫などにより、市の木であるクロマツを可能な限り保存しています。

騒音を減らす低騒音舗装

通常舗装はタイヤ溝と舗装面に空気が挟まれることで摩擦音が発生しますが、低騒音舗装は路面の隙間に空気を逃して音を生じにくくします。

憩いと潤いのスペースを創出

道路建設で残った土地などを利用して、沿道に8つの公園と3つのポケットパークを整備しました。桜見公園の花壇はガーデニングボランティアのみなさんが維持管理するなど、地域の方に親しまれる場所となっています。

視界を遮らない遮音壁

車道と歩道の間に透光性遮音壁を設置し、景観にも配慮した騒音対策を行っています。

人にも環境にも優しい道を目指して

モニタリング調査を行います

道路開通後に、大気質・騒音・振動に関するモニタリング調査を行います。この調査結果はまとまり次第公表するとともに、必要に応じて環境対策を講じます。

近くにお住まいの方の声

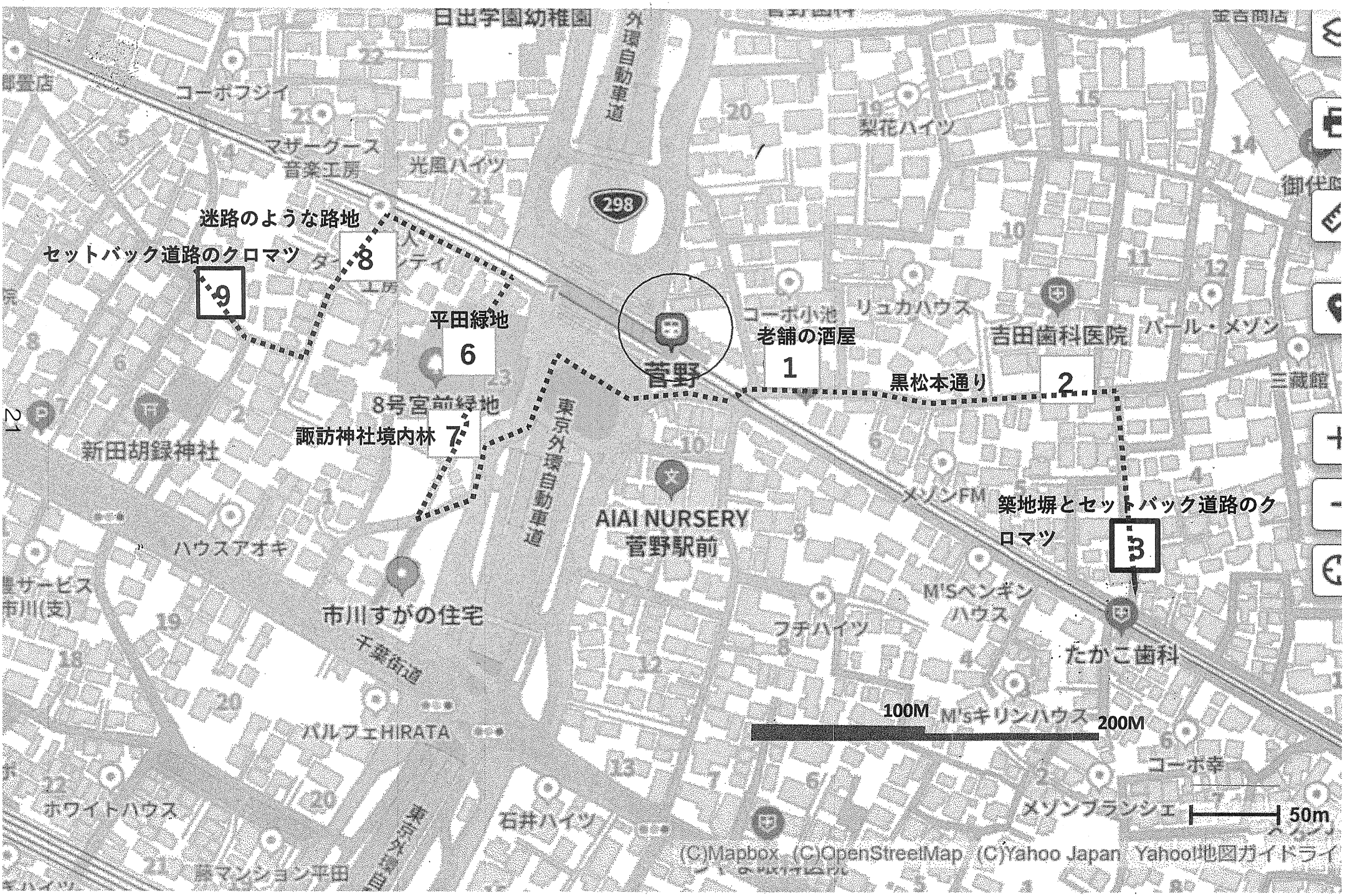
高齢者にも子どもにも優しい道に

市川中山団地 悠々(ゆうゆう)クラブ会長
鮫島 慶晃(よしあき)さん

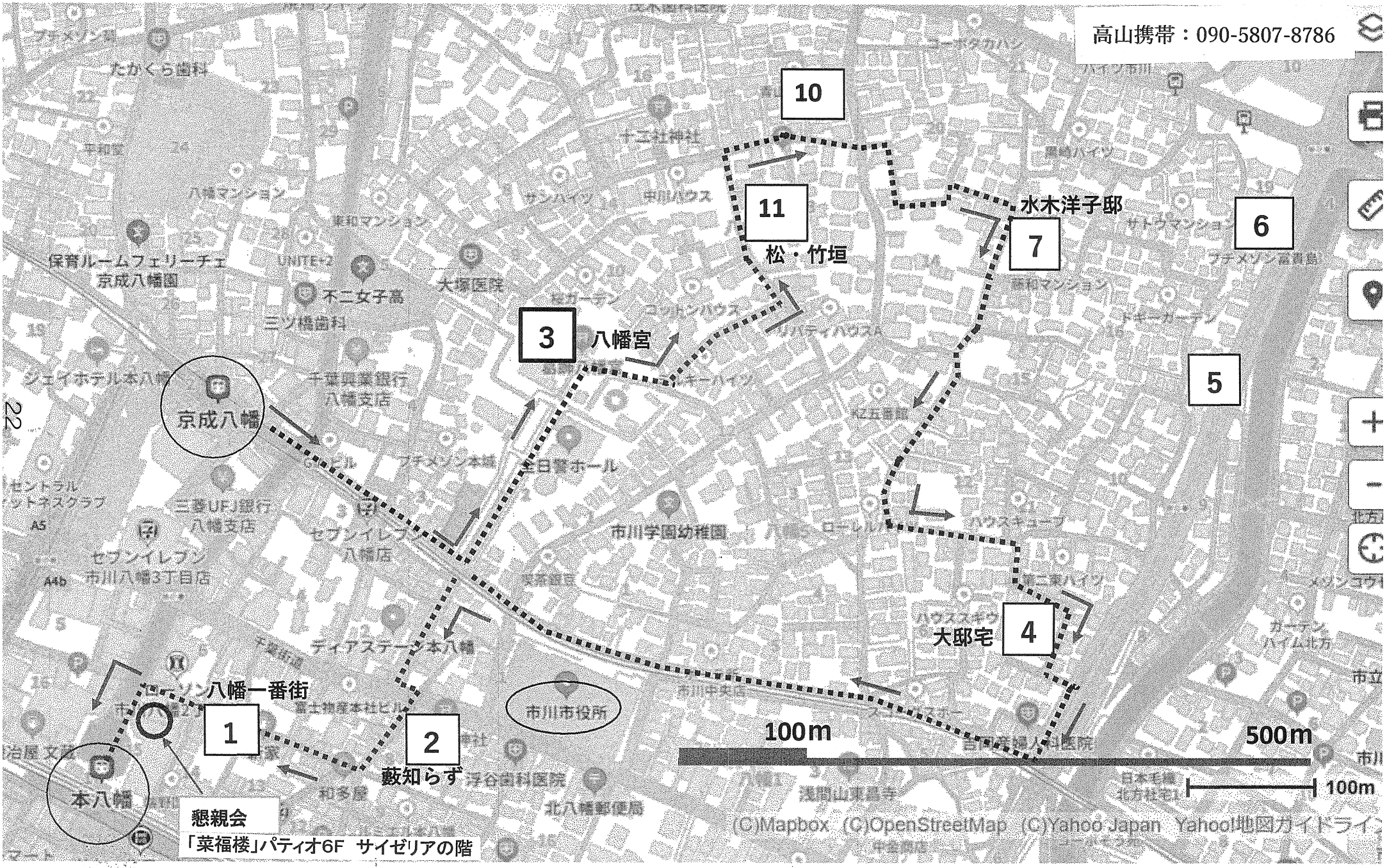
団地の高齢者クラブで毎朝散歩しながら、この道路ができるまでを見守ってきました。歩道が広くて景観もよく、公園が多くて歩くのに気持ちのよい道です。税務署通りや木下街道がよく渋滞するので車の移動に不便を感じていたのですが、開通後はそれも緩和されると期待しています。騒音や事故防止の対策が十分とられて、子どもから高齢者まで全ての人に優しい道であって欲しいと思います。

●これまでの「広報いちかわ」が市公式Webサイト・検索 広報 (http://www.city.ichikawa.lg.jp/pla04/1111000009.html) でご覧になれます。

1．菅野地区クロマツ　ガイド　　別紙資料参照「いちかわ　まち歩き　ガイドマップⅠ」



2．八幡地区　クロマツ・ガイド地図　別紙資料参照「いちかわ　まち歩き　ガイドマップⅡ」



マツ・みち・まち　matsu michi machi

いちかわ まち歩き ガイドマップ I

Walking maps & guides in Ichikawa. I

クロマツのある風景　～菅野・平田・新田エリア～
歴史と文化が薫るまち　～市川・真間・真間山エリア～

発行：まちづくり家づくりCafé Ichikawa　2016/6/1
copyright© まちづくり家づくりCafé Ichikawa. All rights reserved.

菅野・平田・新田を歩く
～クロマツのある風景～

趣ある家々の佇まいと、そびえ立つクロマツ木立。市川の原風景がここにある。

1 京成線菅野駅前

2 菅野クロマツ本通り

3 瓦をあしらった塀とクロマツが一体のオブジェに

コース1／菅野駅～（菅野2丁目散策）～菅野駅：約1.2km／徒歩約20分

京成線菅野駅周辺は、市街地の中にクロマツの高木がそびえ立つ、もっとも市川らしい景観に溢れたエリアだ。かつては“東の鎌倉”と呼ばれた高級住宅地。古くからの邸宅が今も数多く残され、家々の佇まいとクロマツの高木が織りなすまち並み景観の美しさに、つい見とれてしまう。

まずは、菅野駅北側から東に延びる“菅野クロマツ本通り”を歩く。目に飛び込んでくるのは趣ある老舗の酒屋❶。遠方を眺めれば、家々の高さの2倍を超えるようなクロマツ木立が風格をもってそびえ立っている❷。

一つ二つ裏手の小路に入ると、そんな風情はより増していく。人々がいかにクロマツのある風景に愛着を持ってきたかは、セットバックした道路上にも、クロマツの高木が大切に残されている光景からわかるだろう❸。↙

4 マツを避けて塀が造られている菅野2丁目のクロマツ小路

5

6 平田緑地（特別緑地保全地区）諏訪神社の境内

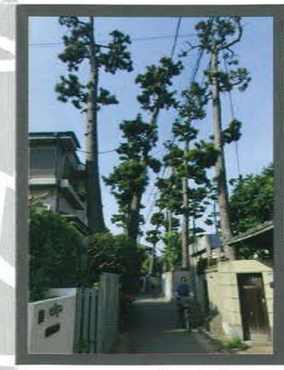
7

↘クロマツの木をわざわざ避けて造られた塀もあちこちで見かける❹。道路上のマツと民有地内のマツが連続して、さながら並木道のようだ❺。

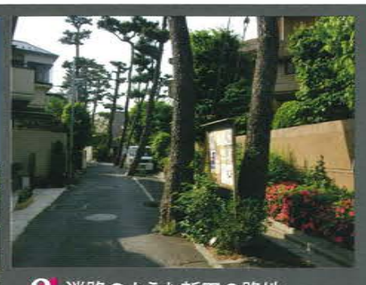
この景観豊かな地区が東京外環道の建設ルート（2017年度完成予定）になるに当たり、市は「クロマツをできる限り保全し、新たな植樹も行うこと」を受け入れ条件の一つとした。東日本高速道路株式会社は移植可能なクロマツをいったん仮置き場に移し、完成後に植樹帯に植え戻す計画だ。また、日出学園小学校の児童達などの協力で、クロマツを種から育てる取り組みが行われ、約130本の若木が今では2～3mにまで育っている。クロマツの立派な街路樹が再生され、菅野ならではの風景が復活することを望みたい。

コース2／菅野駅～（平田緑地、新田1丁目・菅野3丁目散策）～県道264踏切：約1.7km／徒歩約30分

諏訪神社の境内林❼と一連の↙



8 迷路のような新田の路地



9 セットバックで道路上に残されたクロマツ

10 民有地のクロマツが連続してまるで並木道のよう

↘樹林地からなる約0.7haの平田緑地❻は、市川の中でも、もっともクロマツの高木が群生しているところ。都市緑地法に基づく特別緑地保全地区として半永久的に保全されている。

続いて新田1丁目の路々❽を歩く。とにかく迷路のような路地がたくさんあるので、行き止まりには要注意！この界隈も、クロマツ市街地の魅力たっぷりだ。❾はマンション建設に伴うセットバックで道路上に残されたクロマツの高木。マンション敷地内もクロマツの高木が建物を囲み、まるで別荘地のような雰囲気。小さな京成線の踏切を渡り、北側の菅野3丁目の路々も、じっくりと散策してみよう。

コース3／県道264踏切～（新田1丁目散策）～新田春日神社：約0.8km／徒歩約15分

踏切を渡って再び、新田1丁目へ。❿のように魅力ある景観の路地がいくつもあるので、お薦めコースを外れての路地散策にも挑戦してみては。

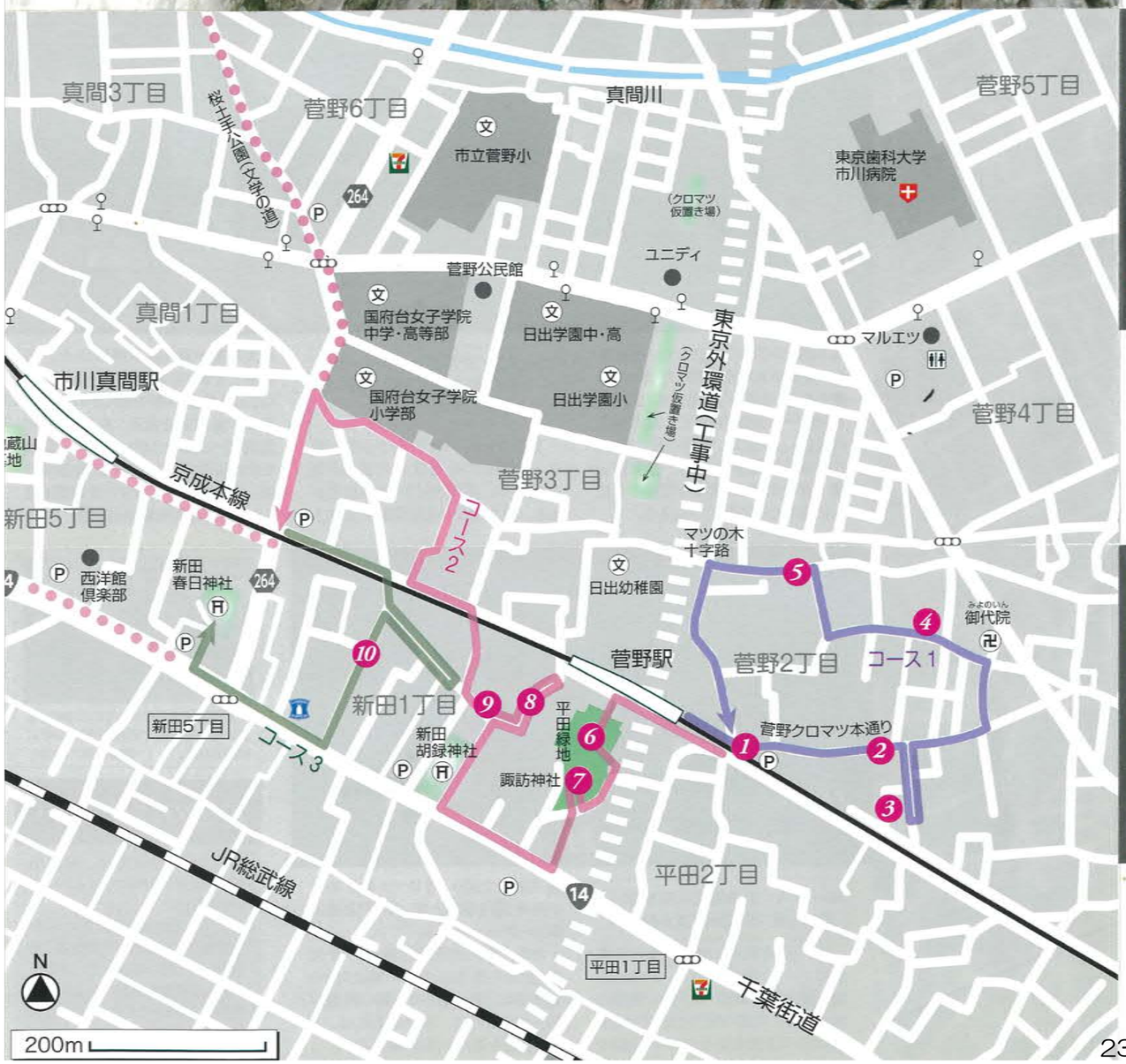
足をのばせば…

もっと散策を楽しみたい方は、京成線沿い、または千葉街道（国道14号）沿いを辿って、歴史と文化の薫る市川・真間・真間山エリアのコース（ウラ面）へ。
また、春には、路に覆いかぶさる桜並木が見事に続く桜土手公園（文学の道）まで足をのばしてみるのもお薦め。

まちづくり家づくり Café Ichikawa

まちづくり家づくりCafé Ichikawaは、市川の美しい景観を守り将来に繋げることを目的に活動をしている市民団体です。
クロマツの木立や路地など、暮らしの中に溶け込んで日常は気がつかない景観の良さを味わってほしいと、地域別に厳選し、まち歩きマップに表現しました。写真には個人宅も含まれますが、まちの品位を担っている所有者の方々の心意気を感じます。まち歩きの際にはマナーをもって観賞を。

［連絡先］（代表：髙木彬夫）
TEL&FAX：047-705-4817
E-mail：arch_takagi@nifty.com
（お問合せは、できるだけメールまたはFAXで）



市川・真間・真間山を歩く
～歴史と文化が薫るまち～

万葉から続く歴史と文化。
まちの隅々から、
その薫りが漂ってくる。

1 夕暮れ時の大門通り

真間の継橋 2

3 弘法寺から市内を望む

木内ギャラリー 4

5 日本福音ルーテル市川教会

6 手児奈霊神堂

コース1／JR市川駅～木内ギャラリー：約1.8km／徒歩約40分

JR市川駅北口からロータリーの先、千葉街道を左に行くと大門通り入口がある❶。北に真っすぐに延びるこの通りは、真間山弘法寺へと至る参道だ。通りを北上して真間川を渡り、つぎはし❷を通って、真間山弘法寺❸の石段を登る。弘法寺境内の東端は、市川、菅野方面を望むたいへん見晴らしの良い場所だ。境内を西に向かい、幼稚園の手前を西に進むと木内ギャラリー❹に着く。かつてここには明治時代の官僚・政治家、木内重四郎氏の和洋折衷様式の大邸宅が建てられていたが、今では洋館部分を再現した建物が市民ギャラリーとなっている。

コース2／木内ギャラリー～芳澤ガーデンギャラリー：約1.4km／徒歩約25分

木内ギャラリーから弘法寺に戻り、今度は坂道を利用して下って行くと、中間右手に段々状の道があるので降りて行く。真間川沿いを西へ向かうと日本福音ルーテル市川教会❺が見えてくる。ウイリアム・メレル・ヴォーリスの設計により1955年に竣工された同教会は国の登録有形文化財。すぐ隣の住宅は、道路から数寄屋風門構えまでのアプローチを斜めに取り、周辺にゆとりをもたらした造り。そのほかにも真間川沿いには、よく手入れされた生け垣や、大きな透ける門扉から見える庭の花木が四季を楽しませてくれる家々が建ち並んでいて、住民のまちに対する敬意が伝わってくる。

そんな真間川沿いを散策して大門通りの入江橋へと戻る。橋から眺める水面、家並み、そして真間山の緑が一体となった景観が美しい。万葉集にも詠われた絶世の美女、真間の手児奈の霊を祀った手児奈霊神堂❻の境内を観て、芳澤ガーデンギャラリー❼へと向かう。

同ギャラリーは、街かどミュージア↙

7 芳澤ガーデンギャラリー

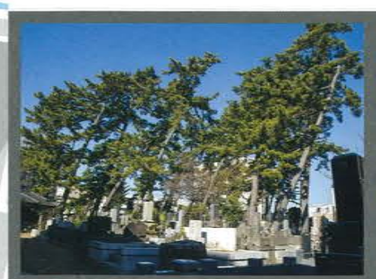
8 塀にクロマツを配した邸宅

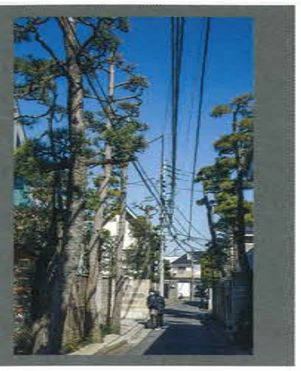
真間銀座通り 9

↘ムまちづくりの一環として、芳澤氏から寄贈された百樹園と呼ばれる庭園をそのまま活かして造られた美しいギャラリー（2004年竣工・高木彬夫の設計）。近くには、郭沫若記念館（4月初旬の芝桜が美しい）、須和田公園（弥生時代の遺跡を整備した広い公園）などの見どころもある。

コース3／芳澤ガーデンギャラリー～京成線市川真間駅：約1.5km／徒歩約30分

芳澤ガーデンギャラリーから南へ戻り、須和田六所神社への道路を東へ向かうと、❽の棟門のある住宅がある。数年前までは実業家や文化人の大屋敷が建ち並ぶ通りだった。屋敷跡にできた介護老人ホームの山裾に広がる庭園の池や滝にその面影が残る。真間川を渡り、京成線市川真間駅へと向かうが、真っすぐ最短で駅に戻らず、じっくりと路地散策を楽しんだのち、クロマツの街路樹が目を引く駅前の真間銀座通り❾へ。↙


10 地蔵山墓地


路地に続くクロマツ木立 11

コース4／京成線市川真間駅～JR市川駅：約1.2km／徒歩約25分

市川真間駅から南側の地蔵山墓地のクロマツ林❿を観て、自然幼稚園を抜け千葉街道へと出る。陸軍の軍都だった戦前の歴史を偲ばせる老舗の料亭2軒を見ながらバス通りを京成線まで戻り、クロマツ木立の多い路地⓫を散策して、再びJR市川駅ロータリーへと至る。

なお、市川真間駅北側エリアや大門通りから市川広小路の奥に向かう辺りには、車が通らない細い路地が残っているので、余裕があれば、さらに探訪を進めて見るのも面白い。

千葉街道をまたぐかつての三本松（写真は昭和初期）。1958（昭和33）年に伐採された。（写真提供：表の家）

足をのばせば…

路地に興味ある方は、JR市川駅より反対回りのコース4から歩いても楽しい。
また、もっと散策を続けたい方は、京成線沿い、または千葉街道（国道14号）沿いを辿って、クロマツのある風景を満喫できる菅野・平田・新田エリアのコース（オモテ面）へ足をのばしてはいかが。

クロマツのまち その由来

東京から市川市に入ると、まず人々の目を引くのが、深く緑をたたえた江戸川沿いの国府台斜面林、そしてクロマツの高木が市街地に点々とそびえ立つまち並みだ。

京成線沿線や千葉街道沿いの一帯は、縄文の昔、海に突き出た砂州だったところ。この市川砂州上に昔はクロマツが自生していたと考えられるが、現存するクロマツの高木は江戸時代後期以降、梨畑や桃畑を潮風から守るために植栽された防潮風林に由来する。

大正期から昭和前期にかけて、この地域は東京中部・東部で商売を営む人々の高級住宅地・別荘地となり、クロマツは敷地の境界としてそのまま活かされ、市川ならではの現在のようなまち並み景観につながった。

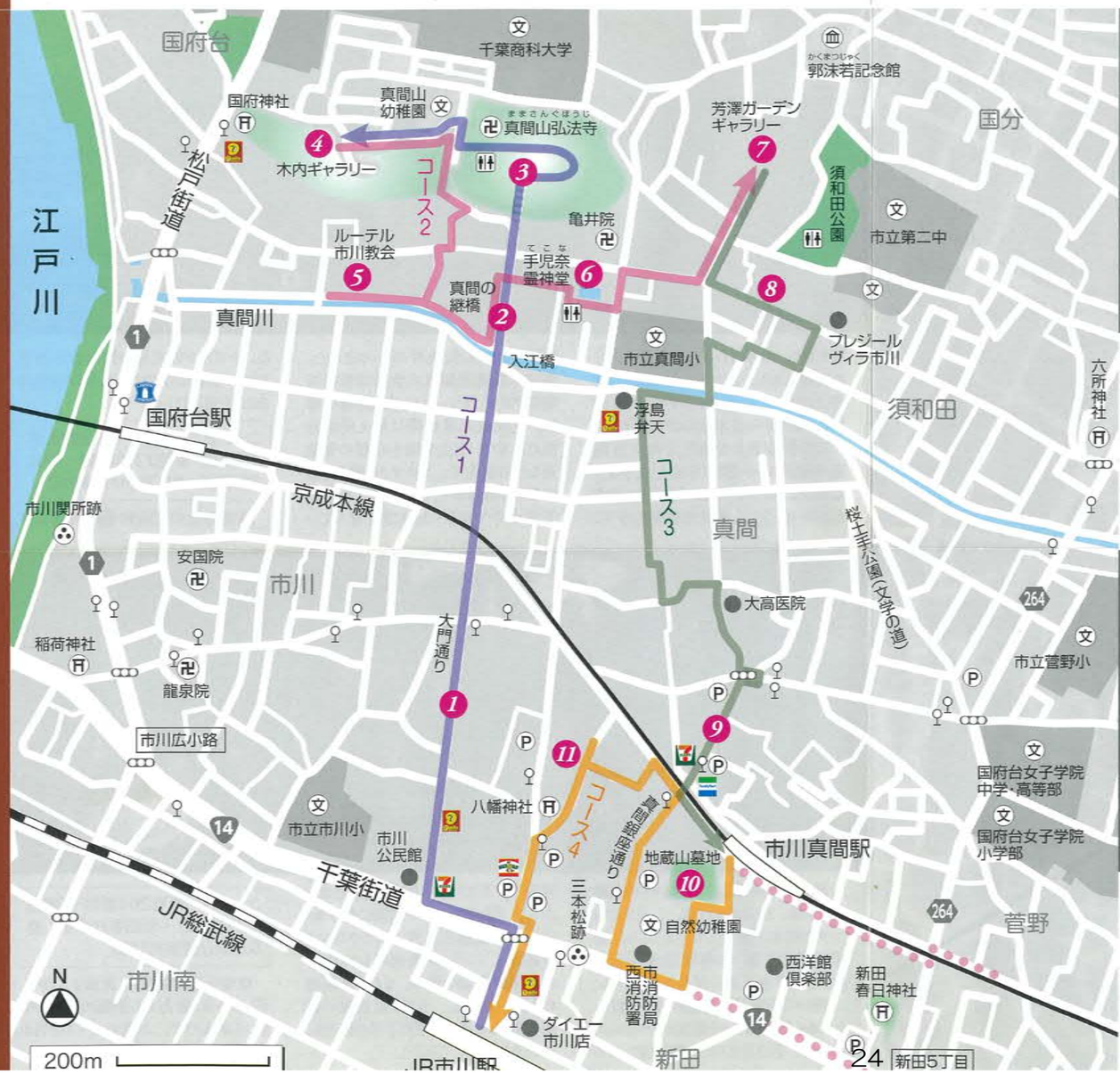
近年、相続の問題もあり、大きなお屋敷が分譲宅地化されるのに伴って、クロマツの数は急速に減ってきているが、今でも、家々の佇まいとクロマツの木立が織りなす景観を楽しめる小路が随所にある。

いちかわ 路地の魅力

市川の魅力に触れるには、いわゆる名所旧跡のポイントをただ辿るのではなく、個性的な門構えを見せる家々の佇まいとクロマツ木立が織りなすまち並み景観そのものを楽しむ路地散策をお薦めしたい。

菅野・平田・新田エリアは、中でもクロマツのあるまち並みがもっとも美しいところ。京成線より北側の八幡エリアも同様で、クロマツのあるまち並みとともに、サクラ並木に彩られた真間川沿いの小路もまた格好の散策路となっている。市川・真間・真間山エリアは、古代からの歴史と文化の薫り溢れるエリア。さらに、江戸川沿いに至ると、国府台斜面林から北の小塚山方面へ、水と緑、歴史と文化に触れられる回廊コースがある。中山・若宮エリアは、法華経寺を中心に発展した社寺のまち。スダジイやクスノキの巨木がそびえ立つ路地もまた、このエリアの魅力だ。

多くの文人達が愛した市川の魅力を、のんびりとした散策でぜひ、楽しんで頂きたい。



マツ・みち・まち　matsu michi machi

いちかわ　まち歩きガイドマップ Ⅱ

Walking maps & guides in Ichikawa. II

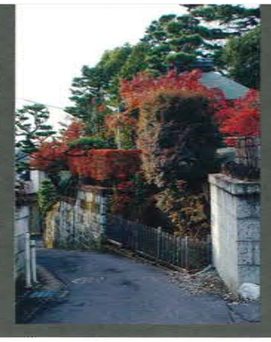
寺社のまちと路地の魅力　～中山法華経寺周辺エリア～

緑濃い屋敷街と川辺の桜　～八幡・冨貴島・真間川エリア～

発行：まちづくり家づくりCafé Ichikawa　2017/1/15
copyright © まちづくり家づくりCafé Ichikawa. All rights reserved.

1 参道入り口にある黒門

起伏ある大地を石段が繋ぐ 2



3 邸宅を彩る紅葉とマツを眺めながら坂道を行く

中山法華経寺周辺を歩く

～寺社のまちと路地の魅力～

名刹のぐるりに広がる、起伏に富んだ大地。思わず誘い込まれる、小径が続いてゆく。

寺を抜きに中山の町を語るのは難しい。日蓮は鎌倉・松葉ケ谷で焼き討ちに会い、幕府に追われ、富木常忍（のちの日常上人）のもとに身を潜めた。正中山法華経寺は日蓮没後、日常ら弟子たちによって天文14（1545）年に開山した寺だ。16の堂を持ち、また総門内には17の山内寺院・塔頭がある。

この法華経寺が建つ中山の景観の特徴は、下総台地と入り組んだ谷津とが造り出す高低差。台地中央を法華経寺が占めていて、周りは海岸低地に向かい、坂や崖となって下がっていく。この起伏の変化を足の裏で感じ取りながら、境内の参観だけでなく、味わいある周辺の道々もじっくりと散策してみたい。

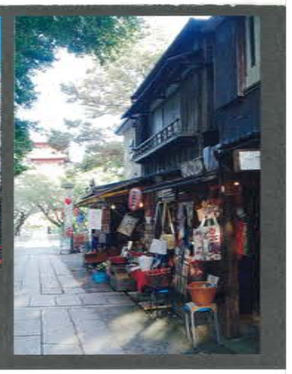
京成中山駅～（西コース）～法華経寺境内：約1.5km／徒歩約35分

京成中山駅前を降りるとすぐに黒門（総門）1 がある。ここから参道が始まるが、まずは黒門手前を左折し、↙

4 昼も暗い巨大クスノキの路地

ハスの花が美しい龍王池 5

6 サクラの季節の法華経寺境内



参道に建ち並ぶ茶店 7

↘台地が海側に下がっていく中間線辺りを等高線なりに辿ってみる。右手にある石段の小径 2 を登って左に向かい、小宮山邸 3 を回り込んで坂を下り、また坂道を登ると、鬱蒼とした大木のトンネルが現れる。両側が塀で塞がれていて、まるで切通しのようだ。シコを踏むような形で石積みを割って生えているクスノキの巨木 4 が、暗い坂道の主のようで怖い。ここを峠に道は低地に入る。住宅地に変わる以前はガマの穂が生える湿地だったが、今では龍王池にその面影を残すのみ。夏には見事なハスの花 5 が池を彩る。

ここから法華経寺境内 6 を横切る。参道から境内広場入り口にかかる龍渕橋の欄干には鬼子母神のしるし、ザクロの彫刻。橋脇の茶店の軒先には名物の衣かつぎが大皿に盛られ、煮しめたおでんが鍋から湯気を上げる 7 。

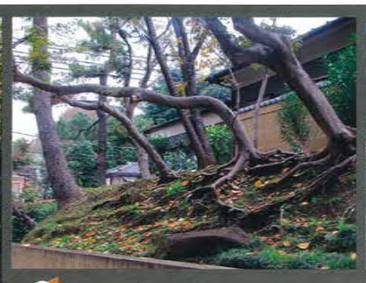
法華経寺境内～（東コース）～京成中山駅：約2km／徒歩約50分

境内を抜けて北東方面へと進む。右側に駒形堂と泣きイチョウ（市川の巨木）を観て、道すがら振り返ると、逆光の五重塔 8 。このシルエットもまた美しい。↙

足をのばせば…

時間に余裕があれば、龍王池辺りから北上して東山魁夷記念館へ。さらに、深い斜面林をたたえる子の神社を巡ってみるのもよい。

8 裏手から眺望する五重塔



法宣院入り口を彩る木々 9

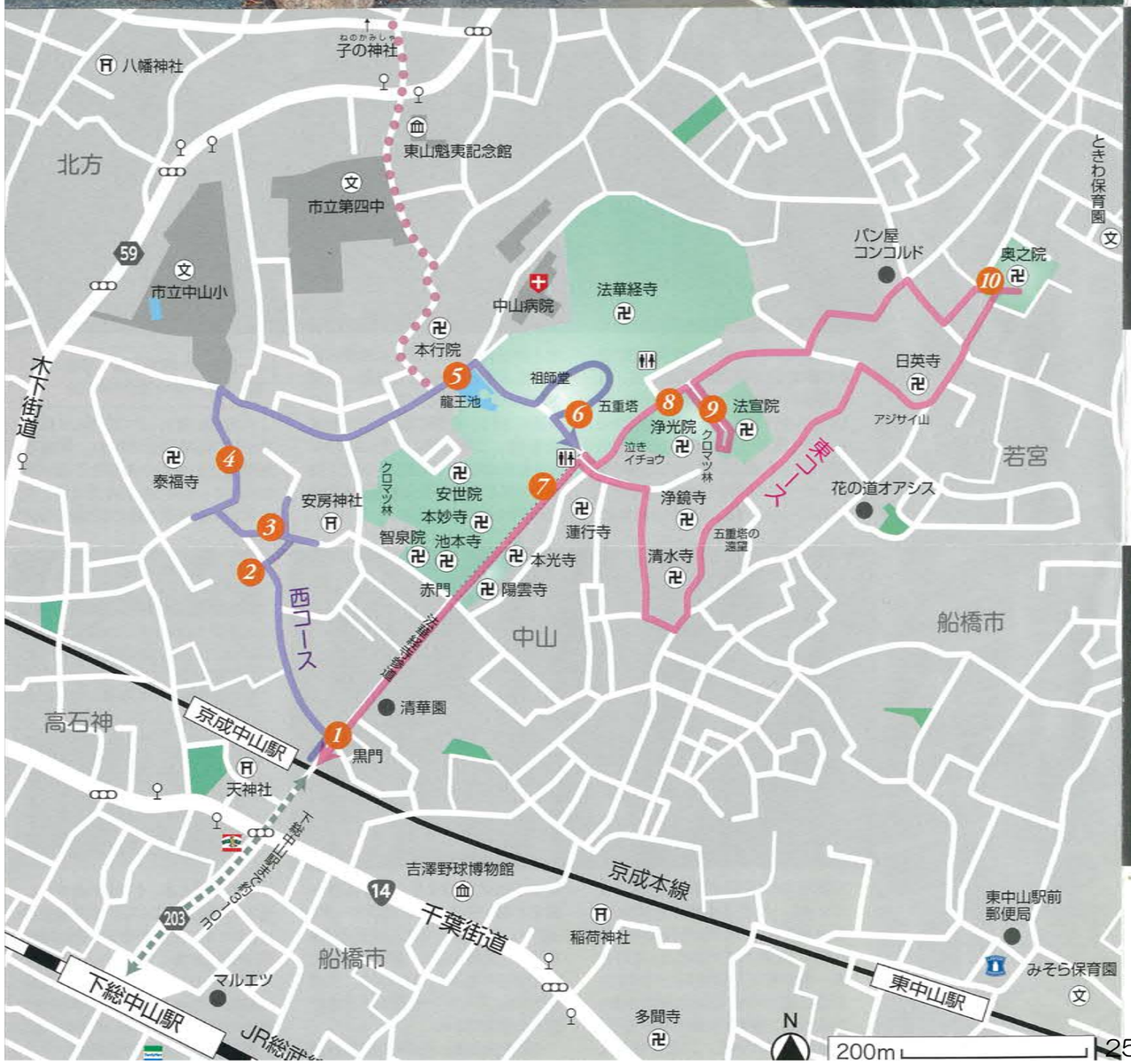
10 百日間の荒行の初日、奥之院を参る荒行僧たち

↘ 法宣院の参道は緩い上り坂。両側にある植え込みのカエデが品格ある景観を形づくっている 9 。

さらに北上し、道標に従って奥之院へ。奥之院は富木常忍の居所、北条時頼の追手を逃れた日蓮が身を寄せていた場所だ。

毎年11月1日、法華経寺の百日間荒行の初日には、全国から集まった荒行僧達が入行前に奥之院詣でをする 10 。これから始まる荒行の厳しさを振り払うように、大声で南無妙法蓮華経と唱え、日常上人（富木常忍）を祀った廟を巡る。荒行が開ける頃、廟は一面の紅梅に包まれる。

奥之院を辞して南に坂道を下る途中、右手の狭い急坂を登ってみる。程なくして左折、かつて別荘地だった落ち着いた小径を進むと、法宣院のクロマツ木立と五重塔の眺望が西にパッと開ける。夕日に震むその景観が実に美しい。清水寺の表に回って再び法華経寺境内に戻り、参道を下って駅へと至る。



まちづくり家づくり Café Ichikawa

まちづくり家づくりCafé Ichikawaは、市川の美しい景観を守り将来に繋げることを目的に活動をしている市民団体です。
クロマツの木立や路地など、暮らしの中に溶け込んで日常は気がつかない景観の良さを味わってほしいと、地域別に厳選し、まち歩きマップに表現しました。写真には個人宅も含まれますが、まちの品位を担っている所有者の方々の心意気を感じます。まち歩きの際にはマナーをもって観賞を。

［連絡先］（代表：高木彬夫）
TEL&FAX：047-705-4817
E-mail：arch_takagi@nifty.com
（お問合せは、できるだけメールまたはFAXで）

八幡・富貴島・真間川を歩く
～緑濃い屋敷街と川辺の桜～

繁華街の隣に広がる、風情あるお屋敷街。そして、川辺の桜並木が人々を魅了する。

1 賑やかな八幡一番街

八幡の藪知らず 2

3 葛飾八幡宮の千本イチョウ

4 風格ある漆喰塀の大屋敷

5 数寄屋造りのお屋敷とマツ

マツに溶け込む近代建築 6

コース1／JR本八幡駅～葛飾八幡宮：約0.8Km／徒歩約15分

都心まで30分かからないアクセス条件に恵まれた市川市。そんな市川市の中でも、最も活気ある商業地域が八幡地区だ。しかし、そのすぐ北側には、思わず散策したくなるような閑静なお屋敷街が広がる。

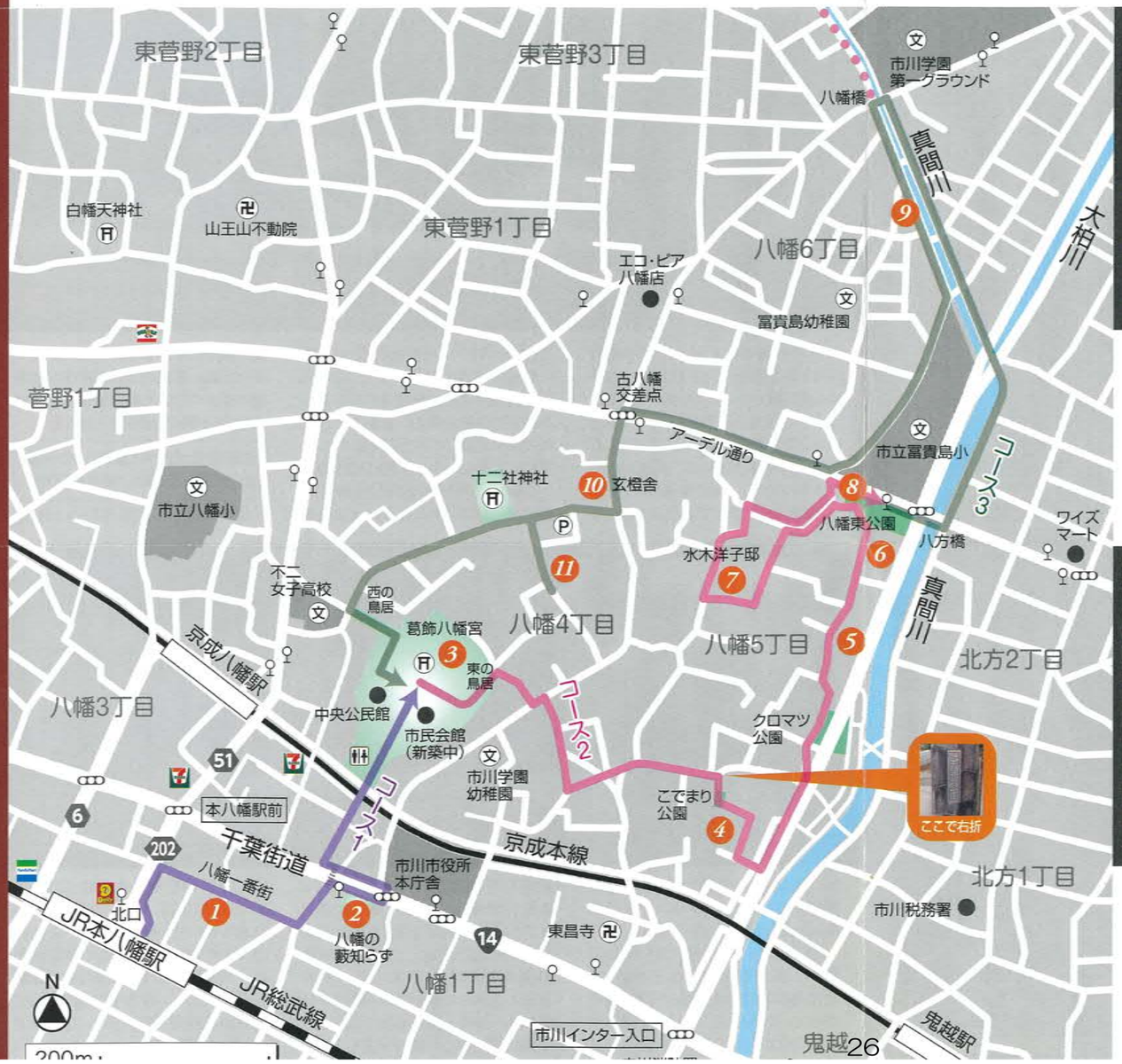
まずはJR本八幡駅北口からスタート。北へ向かい、最初の道を右折して八幡一番街❶へ。賑やかな商店街を抜けて左折すると千葉街道に出る。右側にある鬱蒼とした竹藪の森は、全国に名の知れた“八幡の藪知らず”❷だ。藪に入ってはならないとの古くからの言い伝えが命名の由来で、歴史を紐解きたくなるような雰囲気が漂う。千葉街道を渡って鳥居をくぐると、そこは葛飾八幡宮の参道。京成線の踏切を越えれば境内だ。

“はちまんさま”の愛称で親しまれてきた葛飾八幡宮❸は八幡の“へそ”として、まちの発展を支え続けてきた。建立は890年頃まで遡り、格式も高い。社殿東側の千本イチョウは毎年11～12月頃にライトアップされ、人気を呼んでいる。現在、平成29年4月に執り行われる三十三周年大祭に向けて各所で整備が急ピッチで進んでいる。境内では毎年9月15日から農具市（通称“ボロ市”）が開かれる。

コース2／葛飾八幡宮～八幡東公園（冨貴島小学校前）：約1.8km／徒歩約45分

東の鳥居を出ると、そこはもう閑静なお屋敷街だ。クロマツの点在するクネクネ道を歩き、小さな公園（こでまり公園）を抜けると、長く延びる漆喰塀の大屋敷❹が現れる。クロマツの高木群を配した、どっしりとした門構えは圧巻。何とも風情ある格調高い邸宅だ。

開通したばかりの幹線道路を北上し、左斜めの道に入ると、右側には風格ある数寄屋造りのお屋敷❺。大谷石の塀にクロマツが映える。↙



7 水木洋子邸

冨貴島小と八幡東公園 8

9 真間川べりの桜並木

↘やがてクロマツ群の緑を背にRC造りの邸宅❻が正面に見えてくる。近代建築とクロマツの取り合わせが、新しいまち並み景観のあり方を感じさせる。その先のT字路を左折。道なりに行くと、右側にこんもりとした緑に囲まれた一軒家が目を引く。戦後の日本映画界の草分けとして著名な脚本家、水木洋子邸❼だ。現在は生前の面影を偲ぶギャラリーとして保存・公開されている。ぐるっと一周して、アーデル通りに出る。右側にあるのは八幡東公園❽。この公園にそびえ立つクロマツ木立は地域の貴重な財産だ。向かいの冨貴島小学校の校庭にも立派なクロマツの高木が並ぶ。

コース3／八幡東公園～葛飾八幡宮：約2.4Km／徒歩約60分

八方橋を渡り、すぐ左折して桜並木が続く真間川沿いを行く。幹線道路整備でかつての水辺の景観が損なわれてしまったのは残念だが、大柏川との分岐点を越えると静かな↙

10 ギャラリーにもなる玄橙舎

マツと竹垣が路地を彩る 11

↘散策路の景観が蘇る。川風を受けながら、桜並木が覆いかぶさる石畳の道を歩くのは何とも気持ちが良い❾。八幡橋まで来ると、川の右側一角が市川学園の第1グラウンド。以前、市川学園高校の校舎があった場所で、緑豊かな樹木群が川べりに彩りを添えている。ここで折り返し、今来た道の対岸を歩き、冨貴島小裏手の細い道を辿って再びアーデル通りへ。右に進んで古八幡交差点まで至り、左折すると、緑に囲まれた邸宅がすぐ右手に見えてくる。玄橙舎❿だ。ギャラリーを兼ねた自然味豊かな住居である。

その先を右折、しばらく行くと左側に土蔵が見える。その角を曲がると、竹塀に囲まれ、こんもりとした屋敷林にクロマツの高木がそびえ立つ邸宅⓫が路地を飾っている。

再び戻って先へ進むと、左に葛飾八幡宮の西の鳥居。秋にはイチョウ並木の黄色が鮮やかに映える。ここを通って葛飾八幡宮へと戻る。

足をのばせば…

桜並木に誘われ、八幡橋からもっと先に進んでも面白い。もともと真間川沿いの桜並木は市川市の名所の一つ。満開の時期には大勢の散策人で賑わう。

クロマツのまち その由来

東京から市川市に入ると、まず人々の目を引くのが、深く緑をたたえた江戸川沿いの国府台斜面林、そしてクロマツの高木が市街地に点々とそびえ立つまち並みだ。

京成線沿線や千葉街道沿いの一帯は、縄文の昔、海に突き出た砂州だったところ。この市川砂州上に昔はクロマツが自生していたと考えられるが、現存するクロマツの高木は江戸時代後期以降、梨畑や桃畑を潮風から守るために植栽された防潮風林に由来する。

大正期から昭和前期にかけて、この地域は東京中部・東部で商売を営む人々の高級住宅地・別荘地となり、クロマツは敷地の境界としてそのまま活かされ、市川ならではの現在のようなまち並み景観につながった。

近年、相続の問題もあり、大きなお屋敷が分譲宅地化されるのに伴って、クロマツの数は急速に減ってきているが、今でも、家々の佇まいとクロマツの木立が織りなす景観を楽しめる小路が随所にある。

いちかわ 路地の魅力

そんな市川の魅力に触れるには、いわゆる名所旧跡のポイントをただ辿るのではなく、個性的な門構えを見せる家々の佇まいとクロマツ木立が織りなすまち並み景観そのものを楽しむ路地散策をお薦めしたい。

菅野・平田・新田エリアは、中でもクロマツのあるまち並みがもっとも美しいところ。京成線より北側の八幡エリアも同様で、クロマツのあるお屋敷街とともに、サクラ並木に彩られた真間川沿いの小径もまた格好の散策路となっている。市川・真間・真間山エリアは、古代からの歴史と文化の薫り溢れるエリア。さらに、江戸川沿いに至ると、国府台斜面林から北の小塚山方面へ、水と緑、歴史と文化に触れられる回廊コースがある。中山・若宮エリアは、法華経寺を中心に発展した寺社のまち。スダジイやクスノキの巨木がそびえ立つ路地もまた、このエリアの魅力だ。

多くの文人達が愛した市川の魅力を、のんびりとした散策でぜひ、楽しんで頂きたい。

新建ちば　2017/3NO.252 より

市川市の市木「クロマツ」の保存と再生に取り組む市民活動の紹介

クロマツのある風景いちかわ ガイドマップⅠ、Ⅱ　が完成

街並景観プランナー　　高　山　登

クロマツを考える市民団体

私が所属する市民団体の一つに「まちづくり家づくり CaféIchikawa」があります。

市川市は京成菅野駅付近から京成鬼越駅にかけてクロマツの木立が多く見られます。神社や墓地、緑地にはまとまったクロマツの巨木があります。路地の奥には、屋敷林のようにその巨木のある驚きの大邸宅を発見することもできます（写真①）。

写真①：クロマツの屋敷林があるお屋敷。このような大邸宅が相続などで売却され、ミニ開発などでクロマツは消滅していく運命にある。

市川市の市木「クロマツ」

このようなクロマツのある風景は市川市に住む人々にとって誇るべき景観です。誰もが認めるところでしょう。クロマツは市川市の市木であり、市は既存のクロマツをできるだけ保存するように努めてきました。結婚された方にはお祝の記念樹としてその苗木がプレゼントされた時期もあったそうです。私有地内にあってもある基準以上のクロマツは市の指定樹木として登録され、市の補助で消毒や施肥が行われています。また以前お屋敷内に生育していたクロマツが、建築工事で狭い道路からセットバックされた際に、結果として道路内に取り残された事例もあります。このようなクロマツは、市の管理樹木として登録され保存されています（写真②、③）。市民の協力により、道路と宅地の境界沿にも多くのクロマツが保存されました。ブロックなどで塀をつくるにあたってもクロマツを伐採せず、塀を分断してこれを残して保存されている例もあります（写真④）。

写真②：マンション建設で敷地がセットバック後、路地内に残されたクロマツ。市の管理で保存

写真③：市登録認証のプレート～道路内に残されたクロマツは、市川市に保存樹木として登録

写真④：塀と門柱の間に保存されたクロマツ

写真⑤都市計画道路3・4・18号の建設により、その後伐採された大径木のクロマツ

消滅していく運命「クロマツ」

しかし昨今、市川市のクロマツ保存に関わる予算も大幅に削減されるなど市行政の後退がみてとれます。さらに外環道の建設や都市計画道路の建設などで、急激にクロマツが失われています（写真⑤）。お屋敷内に残る大径木のクロマツも、遺産相続に伴う宅地の売却でその後土地は細分化され、結果クロマツは次々に消滅していく運命にあります。クロマツのある家の周辺住民からは落ち葉で迷惑している、倒れる恐れがあり危険だなどと苦情を受け、やむなく伐採されているものもあります。クロマツのある景観をどのように保全していくか、その課題として大きく二つ考えられます。①今あるクロマツをいかに保存していくか　②公園内の植栽や街路樹など、公共施設内の緑化としていかに再生していくか。

クロマツを考える市民団体の設立とガイドマップの作成

失われてゆくクロマツ、このような状況をいたく悲しみ、市川市の市民団体「まちづくり家づくりCafé Ichikawa」（代表：高木彬夫）は２００９年４月に設立され、クロマツの保存と再生の問題を中心に取り組み８年目を迎えようとしています。平成２６年度から、「マツ・みち・まち」をテーマに多くの人達に景観への関心を持っていただきたいとまち歩きのワークショップが企画され、その後毎年開催されています。具体的には３つのブロックが選定され、公募により５回実施されました。各自の推薦でその魅力的な景観を写真撮影して１ブロック５枚程度の提出をお願いしました。最終的には市川の景観「マツ・みち・まち　」として美しい街並景観のガイドマップを作成するのが目的です。ガイドマップの作成につきましては、いろいろな見本として他事例を持ち込み比較検討した結果、使いやすさと解りやすさを最大限考慮してポケットサイズで、各ブロック別にマップⅠからマップⅢの３部作でまとめることになりました。そしてついに平成２８年６月に第１号のマップⅠが完成しました。①「クロマツのある風景　～菅野・平田・新田エリア～」と②「歴史と文化が薫るまち　～市川・真間・真間山エリア～」からなります（写真⑥）。そしてさらに平成２９年１月にマップⅡが完成しました。①「寺社のまちと路地の魅力　～中山法華経寺周辺エリア～」と②「緑濃い屋敷街と川辺の桜　～八幡・冨貴島・真間川エリア～」からなります（写真⑦）。今年の２９年度は、江戸川沿いから国府台エリアを中心としたマップⅢの作成に取り組みます。

ガイドマップの活用

完成されたマップのより有効な活用としましては、今後あらためて協議していくことになります。マップⅠに関しましては市川市役所の環境や景観関連の部署をはじめ、図書館や出先機関に配布させていただきました。今後、これらの完成されたマップの活用をもって、市川の多くの市民の方々にもっと景観に関心をもっていただけたらと期待しております。また更に“クロマツのある風景いちかわ”が自分たちの住むまち市川の大きな魅力であることにも気づいていただき、「我がまち市川に住まう誇りや愛着」を、一層もっていただけたらと願っております。

写真⑥　マツ・みち・まち
いちかわ　まち歩き　ガイドマップⅠ
クロマツのある風景　～菅野・平田・新田エリア～
歴史と文化が薫まち　～市川・真間・真間山エリア

写真⑦　マツ・みち・まち
いちかわ　まち歩き　ガイドマップⅡ
寺社のまちと路地の魅力　～中山法華経寺エリア～
緑濃い屋敷街と川辺の桜　～八幡・冨貴島エリア～

新連ちば 1503 より　市川市の市木「クロマツ」の保存と再生に取り組む市民活動の紹介

クロマツのある風景いちかわシンポジウム　２０１５

まちづくり家づくり　Cafe　Ichikawa　　高山　登

去る 2 月 21 日、私が所属する市民団体の一つ「まちづくり家づくり Cafe Iclllkawa」主催による　「クロマツのある風景市川シンポジウム 2015」　が市川教育会館にて開催されました。そのご報告です。

市川市は京成菅野駅付近から京成鬼越駅にかけてクロマツの木立を多く見られます。神社や墓地、緑地にはまとまったクロマツの巨木があります。路地の奥には、その巨木がある驚きの大邸宅を発見することもできます。このようにクロマツのある景観は市川市に住む人々にとって誇るべき景観として、誰もが認めるところです。クロ松は市川市の市木であり、市は既存のクロマツをできるだけ保存するように努めてきました。結婚された方にはお祝の記念樹としてクロマツの苗木がプレゼントされた時期もあったそうです。私有地内のある基準以上のクロマツは市の指定樹木として登録され、市の補助で消毒や施肥が行われています。また以前お屋敷内に生育していたクロマツが、狭小道路が拡幅になった折、結果として道路内に取り残されました。このようなクロマツは、市の管理樹木として登録され保存されています。市民側の協力によって道路と宅地の境界沿にも多くのクロマツが保存されました。ブロックなどで塀をつくるにあたってもクロマツを伐採せず、塀を分断してこれを残して保存されている例もあります。

しかし昨今、市のクロマツ保存に関わる予算も大幅に削減されるなど市行政の後退がみてとれます。さらに外環道の建設や下水道施設、都市計画道路の建設などで急激にクロマツが失われています。お屋敷内に残る高さ 20m 位のクロマツも、遺産相続に伴う宅地の売却でその後は細分化され、クロマツは次々に消滅していく運命にあります。クロマツのある家の周辺住民からは落ち葉で迷惑している、倒れる恐れがあり危険だなどと苦情を受け、やむなく伐採されているものもあります。クロマツのある景観をどのように保全していくか、その課題として大きく二つ考えられます。①今あるクロマツをいかに保存していくか
②公園内の植栽や道路内の並木など、公共施設内の緑化としていかに再生していくか

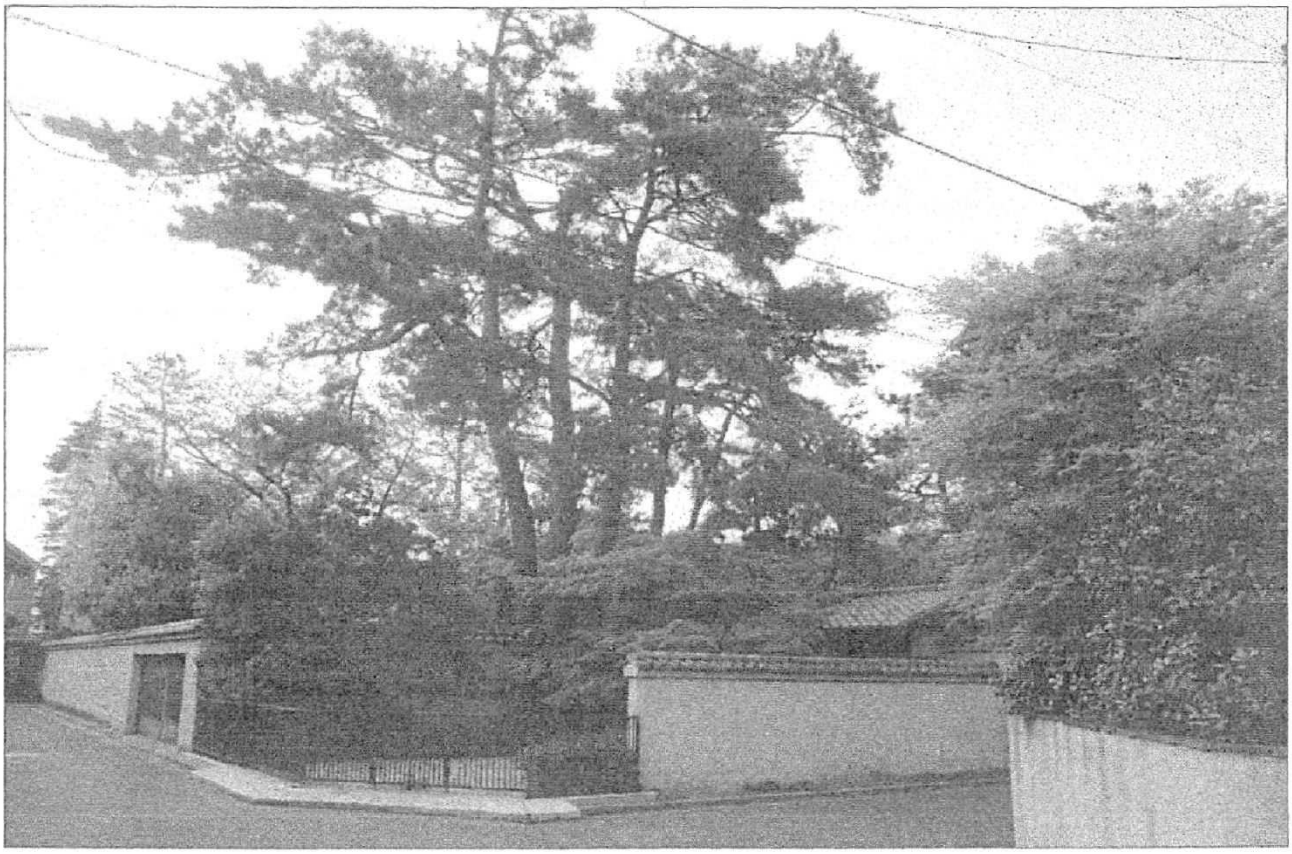
失われてゆくクロマツ、このような状況をいたく悲しみ、市川市の市民団体「まちづくり家づくり Cdfe Ichikawa」（代表：高木彬夫）は 2009 年 4 月に設立され、クロマツの保存と再生の問題を中心に取り組み 7 年目を迎えようとしています。平成 26 年度は、「マツ・みち・まち」をテーマに多くの人達に景観への関心を持っていただきたいとまち歩きのワークショップが企画されました。具体的には 3 つのブロックが選定され、公募により 3 回実施されました。各自思い思いその魅力的な景観を写真撮影して 1 ブロック 5 枚程度の提出をお願いしました。最終的には市川の景観「マツ・みち・まち　景観 50 選」として美しい街並景観のガイドマップを作成するのが目標です。今回はその中間発表となります。まち歩きワークショップでは毎回 30 名位の参加がありました。提出された写真はそれぞれブロック別に整理され、パネル化され
ました。

そして平成 27 年（2015 年）2 月 21 日、市川教育会館ホールにて「クロマツのある風景いちかわシンポジウム 2015」が開催され、12 枚のパネルは会場に展示されました。シンポジウムは、I. 写真と資料展示「マツ・みち・まち　歩いて探した市川の景観」　とII．シンポジウムで構成されました。シンポジウムの第 1 部は日本各地のふるさと運動にかかわる街並み研究家、歴史家で日本ペンクラブ名誉会員の山本鉱太朗氏をお招きし、「ディスカバー市川　文豪たちの愛したクロマツの街」のテーマで講演をお願いしました。かつて市川市に在住した文豪達によってクロマツが紹介された書籍や、なぜ市川市にはクロマ

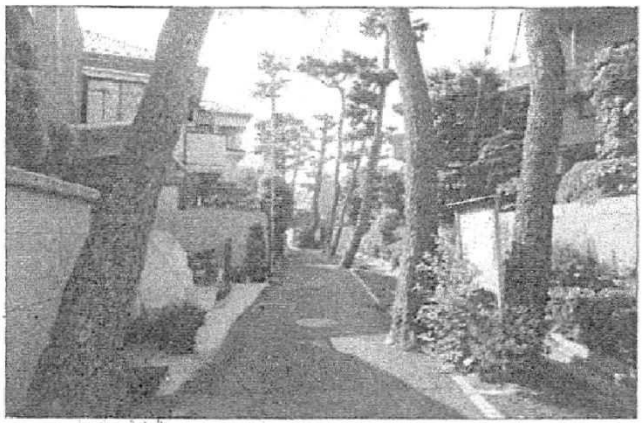
ツが多く生育したのかその歴史的な背景よどについてお話があり、これまで知りえなかった貴重な情報を得ることができました。

第 2 部の市民参加のフォーラムでは、コメンテーターに日大短期大学建築生活デザイン学科准教授の山崎誠子氏にお願いしました。シンポジウムでは約 50 名位の参加あり、活発な意見交換がかわされました。市川市生まれで在住の年輩の方からは、市川の老舗和菓子「しまむら」さんがつくっている「ももサブレ」（桃の形をしたクッキー）についてのお話があり、大変驚きでした。かつて市川は海岸沿いに桃が栽培されており、その防風林はクロマツであったとのことです。また、和菓子「しまむら」さんの「ももサブレ」は、その桃に由来するとのことでした。会場はおおいに盛り上がり、ほぼ全員の方から感想をいただくことができました。今回のシンポジウムは、これからも継続されていく私たちの活動に大きな手ごたえと励みとなりました。

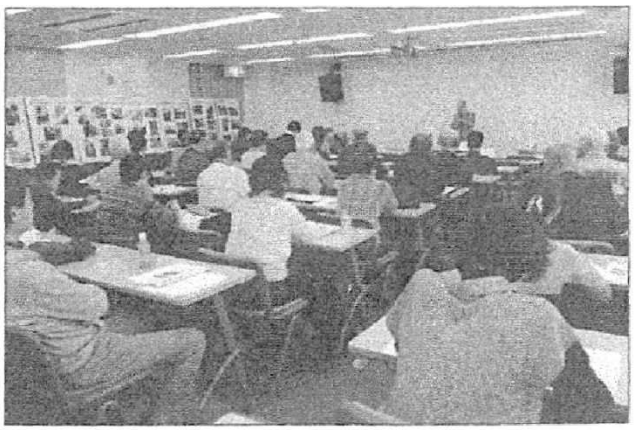
残したいクロマツのある景観
高さ 30m はあろうかと思われるクロマツの大径木のあるお屋敷。このような大邸宅が相続などで相次いで売却された後、ミニ開発されクロマツは消滅していく運命にある。



通称クロマツ通り
建物新築時に敷地がセットバックされ、道路内に残されたクロマツ。市が管理して保存されている



シンポジウム会場
講演は山本鉱太朗氏。左奥は、まち歩きワークショップで撮影した写真のパネル通称クロマツ通り



市川市観光協会

市川市 観光マップ

見どころ豊富な市川の観光スポットを、ひと目でわかるようにイラストで紹介。

市川の梨

梨の産地で、国道464号沿いは「大町梨街道」と呼ばれる。

大町自然観察園

斜面林、湧き水、湿地の広がる谷津の自然を復元した公園で、野生動植物の宝庫。夏にはホタルが飛ぶ。

道の駅いちかわ

こだわりの逸品販売や地域活動・防災拠点としての顔も持つ。都心から一番近い道の駅。

市川市動植物園

園内には動物園の他に、自然観察園やバラ園などを併設している。

里見公園

広さ8.4haある眺望に優れた市民憩いの公園。

アイ・リンクタウン展望施設

地上150m、市内を一望できる絶好のビューポイント。

市川市民納涼花火大会

約14,000発の打ち上げ花火が、夏の夜空を彩る。

とくがんじ 徳願寺

運慶が彫刻をした阿弥陀如来像が本堂に祀られている。

じょうやとう 常夜灯

成田山参詣の船着場として江戸時代の賑わいを今に残す。

広尾防災公園

広々とした芝生のいこいの広場、遊びの広場、水に親しむ広場、花の広場など9つの多彩な広場がある。

行徳神輿ミュージアム

神輿の製作工程、パーツ、道具のほか、普段は見ることのできない内部などを展示。

あいねすと（行徳野鳥観察舎）

生き物や自然を観察しながら、ゆったりとくつろげる憩いの施設。

ひがしやまかいい 市川市東山魁夷記念館

名誉市民にもなっている東山魁夷画伯の作品や愛用品を展示。

かつしかはちまんぐう 葛飾八幡宮

無数の樹幹が伸びている千本イチョウは国の天然記念物。

中山法華経寺

緑に囲まれた日蓮宗大本山の寺院。日蓮の説法の地でもある。

江戸川放水路

釣り船や屋形船が浮かぶ様子は市川を代表する景観の1つ。休日には河川敷や干潟で遊ぶ家族連れでにぎわう。

行徳の海苔

全国でもトップクラスの品質の良さを誇る。薄くて口どけが良く、香りがいい。少し値は張るが、納得のおいしさ。

ホンビノス貝

肉厚でしっかりとした食感で、貝の旨みが濃い。ダシがしっかり出るので鍋に入れてもおいしい。

詳しくはこちらから

市川市観光ガイドブック　検索

http://www.ichikawa-kankou.jp/entry-news.html?id=379593

●アイコンの説明… サイクリングロード　市の木「クロマツ」見どころスポット　市の花「バラ」見どころスポット　桜見どころスポット

2023年9月30日　第153回街なか研資料

街並景観プランナー
髙　山　　登
E-mail：rsu16094@nifty.com

「文人が多く住んだまち市川市　クロマツ多く残る路地裏を歩く」

■市川市のまち並み原風景
- ・江戸名所図に描かれたクロマツのいちかわ
- ・松井天山の鳥瞰図に見る市川の風景（豪商の館や花街）

■京成線沿線（市川砂州）に集中するクロマツと邸宅
- ・クロマツ分布図
- ・クロマツのある邸宅群

■市川市の市木　　クロマツ

■京成線沿線に集中するクロマツのある邸宅

■お屋敷街を形成する高級住宅地
- ・市川に住んだ主な文豪・芸術文化人
- ・クロマツのある邸宅

■クロマツのある路地

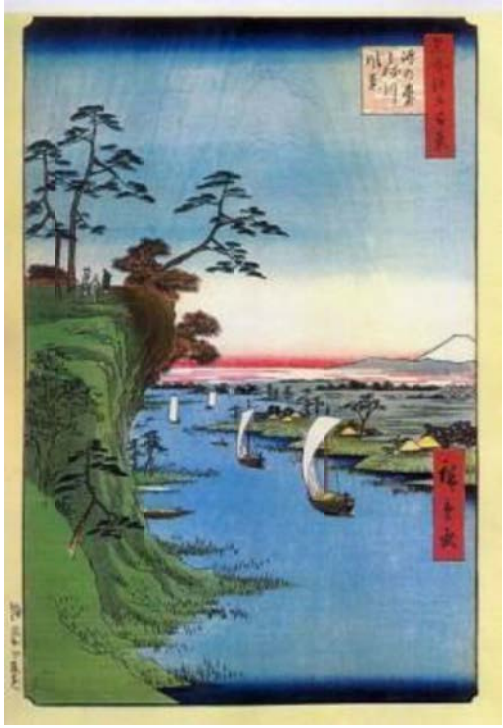
■クロマツ、これまでの保存と今後の運命は

1

江戸名所図に描かれたクロマツのいちかわ

安藤広重

かつて「江戸の名所として」クロマツがまち中を埋め尽くし、万葉の文化が薫る市川・真間界隈は、安藤広重ら多くの浮世絵師のモデルとなった。



左：広重の国府台断崖
（鴻之台利根川風景）
市川市国府台の江戸川の風景
広重デフォルメ（誇張）

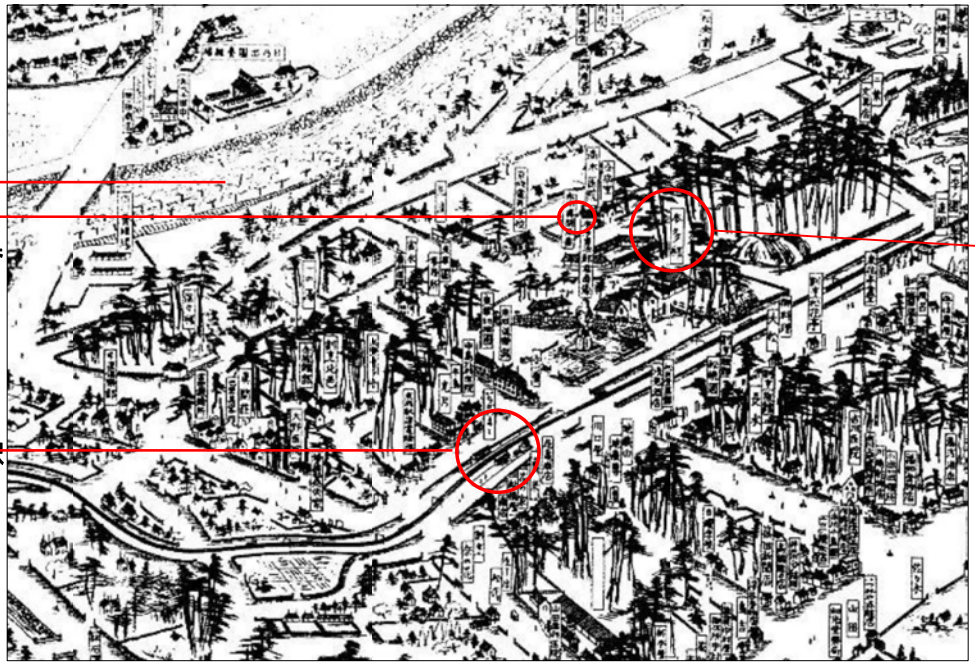
下：「鴻之台公園より江戸川帰帆望む」と題された絵葉書　広重の絵とは逆アングルで撮影されていますが、帆船はほぼ同じ形をしています。

2

松井天山の鳥瞰図に見る市川の景観

千葉県市川町鳥瞰図より（部分）現在の京成線「市川真間」駅付近
沿線は邸宅に取り込まれたクロマツ林が連なるまち並み　1928年（昭和3年）作成

本多邸：京成の社長本多貞次郎の邸宅

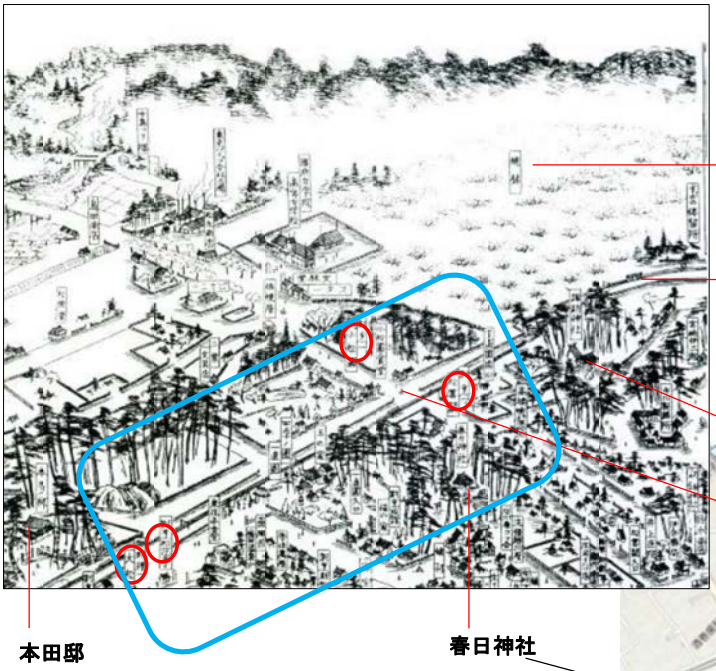


市政施工80周年記念　平成26年度企画展　松井天山の鳥瞰図と市川市域　市立市川歴史博物館より作成

3

松井天山の鳥瞰図

花街のあった菅野地区

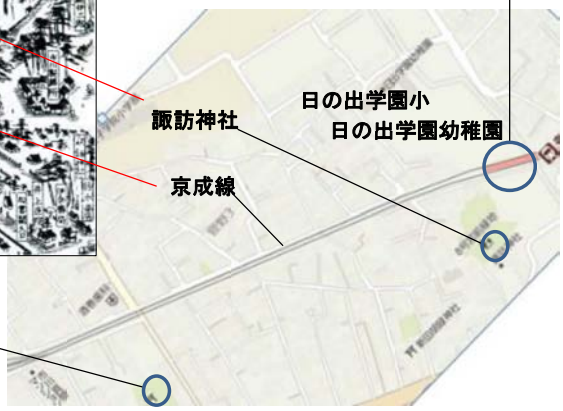


○印
京成線沿線は割烹の小松園、松雲閣、松花亭やお料理大松などがあり三業地（料理屋・待合・芸妓屋）であった

桃林
日の出学園界隈は、かつて桃林

京成菅野駅

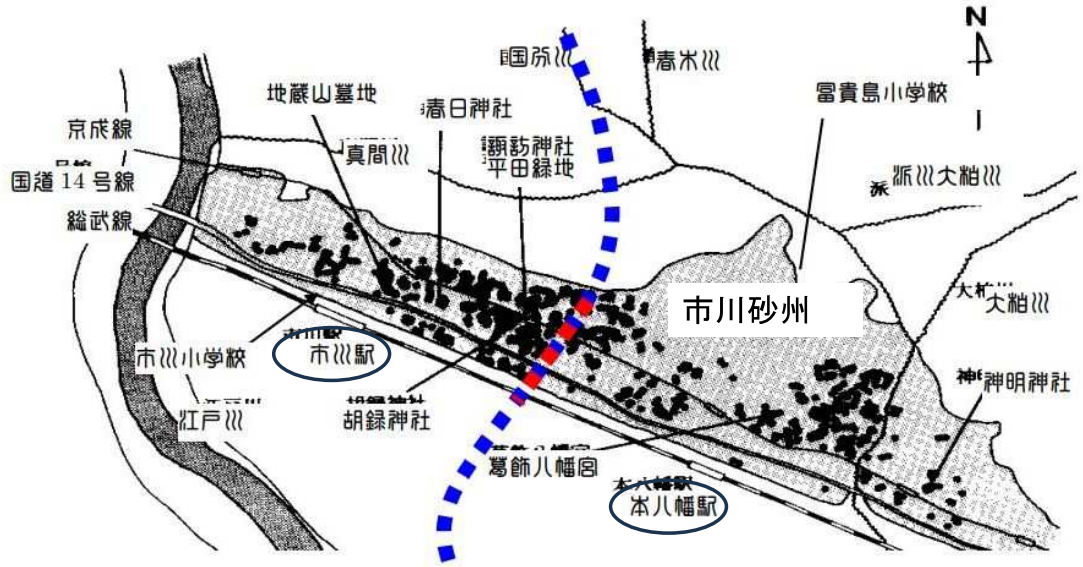
＜現在の地図＞



市政施工80周年記念　平成26年度企画展　松井天山の鳥瞰図と市川市域　市立市川歴史博物館より作成

4

市川砂州に集中するクロマツ



凡例　■■■■：検討地　●クロマツの位置・分布　■■■■外環

市川砂州及びクロマツの分布と外環の関係図

京成線沿線に集中するクロマツのある邸宅群-1

①真間地区　②菅野地区　③八幡地区　④中山地区

京成線沿線に集中するクロマツのある邸宅群-2

・この付近は江戸時代より、豪商の別荘地であった。クロマツの林の中に建物がたってきたと思われる景観。先人たちは、クロマツをできるだけ保存するよう努力してきた
・京成線沿線に集中し、地域の人々のご苦労と理解があって今日に至る

写真:「市川市史写真図録この街の生きる、暮らす」より

市川市の木　クロマツ

市役所の制服

苗木銀行で苗木の準備

市木は1970(昭和45)年、市民投票により制定。路地と松に演出された街並みや文化的価値や「市川らしさ」を見出した

松の制服

昭和の終わりごろまで市役所の制服は松をイメージしたもの
　男性は松の幹で茶色
　女性は松葉で緑色

苗木プレゼント

1975(昭和50)年4月より市に結婚届や出生届をだすと松の苗木をプレゼント。平成10年に廃止

「市川市史写真図録この街の生きる、暮らす」より

お屋敷街を形成する高級住宅地

市川に住んだ主な文豪・芸術文化人

北原白秋	安岡正太郎
幸田露伴	五木寛之
永井荷風	江藤淳
郭沫若	井上ひさし
岸田日出刀	宗　左近
東山魁夷	水木洋子
さだまさし	その他

市川に関する作品も多く、これら文化人の足跡が市民団体や市などの手で「市川文学の散歩道」として残されている。また、付近には公立学校以外にも私立の小学校、中学校、高校、大学も多く点在し、文教都市となっている。

9

クロマツのある邸宅-1

10

クロマツのある邸宅-2　脚本家　旧水木洋子邸

11

クロマツのある邸宅-3　高さ最大級のクロマツがある館

12

クロマツのある邸宅-4

13

クロマツのある邸宅-5 路地に保存されたクロマツ

14

クロマツのある邸宅-6

15

クロマツのある邸宅-7

かつて栄えた花街の面影をみるような古民家レストラン （菅野）

16

クロマツのある路地-1

マンション建設で、道路からセットバックしても保存されたクロマツ

17

クロマツのある路地-2

18

クロマツのある路地-3
敷地境界でも保存されたクロマツ

19

クロマツ、これまでの保存と今後の運命は

市川市’14年度関連予算約900万円

●幹回り60cmを超える約4000本を認定樹木として保護し、’14年現在2,800本の害虫駆除している。
●幹回り1.5m以上の黒松協定2002年スタート（‘13年度180本）:①3年に1度剪定費の一部補助　②立ち枯れ撤去費用を補助（’13年廃止）
●道路内のクロマツは市が管理

道路内

宅地周り・境界

認定樹木

玄関前

クロマツ保存協定

宅地内

20

課題・今後の取り組み

市川市は真間山のある丘陵地から東方の低地へとクロマツが続く。市街地にあっても路地の奥に、クロ松の巨木を取り込んだ立派な邸宅を見ることができる。

このようにクロマツのある景観は市川市に住む人々にとって誇るべき景観として、誰しもが認めるところ。
クロ松は市川市の市木であり、市は既存のクロマツをできるだけ保存するように努めている。

しかし昨今、外環道路や都市計画道路の建設、遺産相続などに伴う宅地の売却で宅地は狭小化され、クロマツは次々に消滅していく運命にある。
クロ松のある景観をどのように保全していくか、その課題は二つ。
①現存するクロ松を今後もいかにして保存していくか。
②公園や道路用地、学校などの公共・公益施設内にいかにして更に再生するか。

課題・今後の取り組み

市川市は真間山のある丘陵地から東方の低地へとクロマツが続く。市街地にあっても路地の奥に、クロ松の巨木を取り込んだ立派な邸宅を見ることができる。

このようにクロマツのある景観は市川市に住む人々にとって誇るべき景観として、誰しもが認めるところ。
クロ松は市川市の市木であり、市は既存のクロマツをできるだけ保存するように努めている。

しかし昨今、外環道路や都市計画道路の建設、遺産相続などに伴う宅地の売却で宅地は狭小化され、クロマツは次々に消滅していく運命にある。
クロ松のある景観をどのように保全していくか、その課題は二つ。
①現存するクロ松を今後もいかにして保存していくか。
②公園や道路用地、学校などの公共・公益施設内にいかにして更に再生するか。

1